

# 光明真言土沙勸信記の字音について

—— 附 字音振仮名・声点付き漢字分韻表 ——

榎 木 久 薫

## 目次

はじめに

一、鼻音韻尾字

二、入声韻尾字

三、拗音表記

四、連濁表記

むすび

## はじめに

和漢混淆文を文体範疇として認めるか否かは議論の分れるところである。しかし、和漢の混淆ということ自体は、文字・表記・音韻・用語・文法・語法など日本語の種々の要素の上に認められる。そして、本来中国語音であつた漢字音が、日本語の中に漢字の音として用いられることも、和漢の混淆の一側面として捉えることが出来る。この場合、本来音韻体系の異なる中国語音を漢字音として日本語の中に取り入れるに際して、漢字音自体がどのように変化したかとい

う面と、交え用いる側の日本語が持つ種々の条件の相違と使用される漢字音との対応、という面から考察を進めて行く道がある。

従来、漢字音の変化の側面からは多くの研究がなされている。一方で、交え用いる側の日本語の文章の表記様式や内容・著述意図の相違、また言語主体の社会的属性の相違等と、用いられる漢字音とがどのように対応しているか、更には言語主体が文章の表記様式や内容・著述意図と用いる漢字音との対応関係をどのように意識していたか、などの観点からの考察が進められて行くべきものと考えられる。

大東急記念文庫蔵『光明真言土沙勸信記』<sup>1)</sup>は次に示したように、別記末尾の識語・別記巻末の記述、及び『高山寺明恵上人行状』<sup>2)</sup>の記述により、高山寺において安貞二年に書写されたものであって、在家の者を対象として著述されたものであることが知られる。

## 『光明真言土沙勸信記』

(別記識語)

安貞二年極月廿六日午時／於高山寺禪堂院草菴記之了

(別記巻末の記述) 別65

コノ記三卷ノナカニハ・タ、在家ノ信ラス、ムルアヒタ・假字ニテ・土沙ノ功能ヲ・アラハス・ハカリナリ

『高山寺明恵上人行状(仮名行状)』(下巻三八丁オモテ)

一嘉祿三年丁亥五月十六日、光明真言ノ土沙義ヲ撰ス、其後安貞二年九月ノ比ヨリ光明真言ノ法ニヨテ土沙加持アリ、カノ土沙ノ間ノ功能并得益勝利ノ委細ハ、同勸信記上下二卷并別記一卷ヲ作テコレヲ注サレタリ、

よって、本資料の字音振仮名は、明恵を中心とした高山寺教学の下での片仮名文における漢字音、資料に即して言い換えるならば、在家の者に示して理解させることが可能な漢字音と考えられたものの姿を示すものと考えられる。

このような漢字音は、經典の字音直読の場合における漢字音とは対照的な位置にあるものとして捉えることができる。つまり、經典の字音直読における漢字音は、漢(中國語)文脈の中で用いられる漢字音であり、また高度に学問的な場における漢字音である。一方、本資料の漢字音は、片仮名文という日本語文脈の中で用いられる漢字音であり、また、本資料は在家の者に示すことを意図した著述であつて、その漢字音は一般的な場における漢字音であると考えられる。本資料の漢字音の性格についての検討にあたっては、その漢字音を右のように位置付け、その観点から検討を加えることとする。具体的には、必要に応じて本資料と同時期に高山寺で作成された『新訳華嚴經音義』『貞元華嚴經音義』<sup>3)</sup>の漢字音と比較を行なう。

以下の考察は、本資料の字音振仮名及び声点を有する漢字について分韻表の形に整理し、それに基づいて行なつた。本放では、分韻表を作成した結果、特に検討を要すると考えられる鼻音韻尾・入声韻尾字及び拗音の表記を中心に述べることとする。分韻表は本放末尾に附したが、分韻表に基づいて韻母表記を整理したものを、表1に示す。

表1

攝	韻	1・2等	3・4等	合音
梗 宕 江	通	1・2等	3・4等	合音
庚 陽 唐 江 鐘 冬 東	韻	a ウ a ウ i ユウ u ウ o ウ	i ユウ i ユウ u ウ o ウ	a ウ a ウ i ヤウ u フウ

k		m		n		
宕	江 通	咸 深		山		臻 曾
鐸	覺 燭 尾	凡 蔽 談 栝 塩 侵	桓 先 寒 元 仙 山 文 稔 魂 真 痕			蒸 登 青 清
a ク	a ク  i ユク  o ク	a ム	a ン	a ン  e ン	o ン	i ヤウ  o ウ
i ク  o ク	o ン o ム o ム	i ム  e ム e ム o ム	e ン	i ン  e ン	i ン  o ン	i ヨウ i ヤウ i ヤウ  e イ o ウ
			a ン  u フ u エ ン e ン	a ン  u フ u エ ン e ン o ン	i ユン  u ン  o ン	u ウ

鎌倉時代語研究

光明真言土沙勤信記の字音について

p	t								
咸 深	山 臻						曾 梗		
業 葉 合 緝	点 末 曷	薛 鎋 物 術	沒 質	職 德 麥 昔 陌 藥					
<p>a a ツウ</p>	<p>a      a ツ      ツ</p> <p style="text-align: center;">e ツ</p>			<p>i      i      i キ      ヤク      ヤク</p> <p style="text-align: center;">o ク</p>					
<p>i i ツウ</p> <p style="text-align: center;">(i) ユ</p> <p>e e ツウ</p> <p>o ウ</p>	<p>i i チツ</p> <p>e e チツ</p>			<p>i i      a      a キヨク      ク      ク             i      i             ヤク      ヤク</p> <p style="text-align: center;">o ク</p>					
	<p>a      a ツ      ツ</p> <p style="text-align: center;">i ユツ</p> <p style="text-align: center;">u ウ</p> <p>e ツ</p> <p style="text-align: center;">o      o ツ      ツ</p>			<p style="text-align: center;">o ク</p>					



	a		
仮	果		
麻	戈	歌	
	a	a	
	i	ヤ	
	e		
	a	i	ヤ
	a		
	u	ウ	
	エ		

〔注〕( )を付したものは韻母表記形が陀羅尼読誦音としてのみ見られるものである。

なお、本資料が仏教教説に関わる内容であることから、字音振仮名は呉音表記が中心であり、若干の漢音表記を交える。本攷では、漢音表記の内、特に考察上問題となるものについて言及した。また、本資料には陀羅尼読誦音を振仮名表記したものがある。これらは漢字音として呉音・漢音と性格が異なるので、本攷では直接の考察の対象とはしなかった。なお、本資料中で陀羅尼読誦音が振仮名表記されたものは次の例である。

上 013 阿(ア)謨(ホ)伽(キヤ)吠(ハイ)嚕(ロ)遮(シヤ)曩(ナウ)

上 015 摩(マ)訶(カ)勃(ホ)陀(タ)羅(ラ)

上 017 鉢(ハン)頭(ト)摩(マ)

上 019 入(シユ)嚩(ハ)囉(ラ)

### 一、鼻音韻尾字

まず、鼻音韻尾の諸字について考察したところを述べる。

#### 1、通・江・宕・梗・曾撮(喉内鼻音韻尾字)

本攷の諸字の直音の韻尾表記は「ーウ」である。拗音表記には「ーユ」表記があるが、直音で韻尾無表記としては、「奉」字に「フ」がある。

25 奉 フ 平輕濁 上 070 奉(平輕濁)フ(平濁)キヤウセサラムト

以下、用例表示は次の順序による。

分韻表における用例番号・当該漢字・振仮名・声点・所在・用例(必要に応じて所在・用例を略する場合がある)  
用例において振仮名・声点は当該漢字の下に括弧に入れて示した。括弧の区別は次の通りである。

( ) は朱筆、( ) は濃墨筆、「」は薄墨筆

この字は次に示すように、『法華經單字』『法華經音訓』に「フ」が見え、呉音で個別の漢字の音として「フ」が存在したものと考えられる。

(單字) フ・ホウ、平濁(反切上字) (音訓) フ、平濁 (名義) 復ウ (蒙求) ホウ、上 (三蔵) ホウ

(以下、『法華經單字』『法華經音訓』『觀智院本類聚名義抄和音注』『長承本蒙求』『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』は、右のように略記する)

次に、本撰の韻母表記として問題になるものとして、体母音表記に「方」字の「ホウ」という合音表記がある。この字は宕掇陽韻であつて、この韻の呉音の韻母表記は「aウ」が普通であり、本資料にも「aウ」という開音表記例が見られる。

(合音表記例)

43 方 ホウ 去 上 073 方(去)藥(入聲)ヤク

46 方 ホウ 上 上 200 治(上濁)チ方(上)ホウナリ

(開音表記例)

42 方 ハウ 去 上 049 方(去)ハウ便(平濁)ヘンシテ



44 方 ハウ 去 上 123 方(去)(ハウ)面(平)(メン)ニ・

45 方 ハウ 上 133 方(ハウ)便(ヘン)ニヨリテ・

47 方 ハウ 上 643 大悲無方(ハウ)ナリ・

「方」字の合音表記については、池上禎造氏・福島邦道氏に論放があり、開音・合音の違いが語義の違いと対応していることが述べられている。本資料で振仮名に合音表記が見られる「方葉」「治方」という語は、次に示したように前田本色葉字類抄に本資料と同じ語形で「ホウ」という合音表記が見られ、これらの語において個別の単語音として合音形が存在したものと考えられる。

前田家本色葉字類抄

疊字 上四七ウ 3 方葉醫方部ホウヤク

疊字 上七一オ 2 治方チホウ

2、臻・山撮(舌内鼻音韻尾字)

本撰の諸字の韻尾表記は「ーン」で異例はない。

体母音表記として、「展」字の「チン」という表記が問題になる。

221 展 チン 平 上 216 展(平)(チン)轉(平濁)(テン)同(去濁)(トウ)説(入)(セツ)スルハ・

この字は山撮仙韻であつて、この韻の呉音の韻母表記は「en」が普通である。この字には『法華經音訓』に「テン・チン」とあり「両音字」という注記が加えられており、『観智院本類聚名義抄』には「テン・チム」とある。

(單字) テン、上 (音訓) テン・チン 「両音字」 (名義) チン・テム (蒙求) テン (三蔵) ×

この字については、高松政雄氏がその著書で南北相違抄について論じられた箇所<sup>(5)</sup>に、

〈前略〉これに対して、我が国独自の音かと想定されるものには、次の如きがある。〈中略〉展転食 南云展<sup>チ</sup>転 北

云展<sup>ズ</sup>転<sup>ズ</sup>へ中略<sup>ズ</sup>右の何れも、南京の音が、韻書・音義等にはないものである。へ中略<sup>ズ</sup>「展」については、まず名義抄和音に「チン テム」の二形が見える。そして、心空の法華経音義中の「異音字」に、この例のみに限って、「展転 テンテンー山門 チンチンー南都」と南都北嶺の相違を示すのである。しかし、その由来は不明である。

とあり、「展」字は「チン」という音が個別の漢字の音として南都において伝承されたものと考えられる。高山寺は華嚴宗の寺であり、明恵も若年の頃には東大寺で修業していることから、南都の音が高山寺においても用いられたものと考えられる。

### 3、深・咸撰（唇内鼻音韻尾字）

本撰の諸字の韻尾表記は「ーム」であるが、「凡」を舌内鼻音韻尾表記の「ーン」で表記した異例が1例ある。

306 凡 ホン 上231 凡(ホン)夫(フ)ナリ。

また、本撰諸字の韻尾表記には訂正例が3例あるが、いずれも「ン」に「ム」を重ね書したものである。

282 音 ヲム 去 上149 妙(平)音(去)ヲム\*聲(上)澗(シヤウ)ヲ \*ンの上に重ね書

289 林 リム 上240 得(トク)眼(平)澗(ケン)林(リム)\*ト \*朱筆リンに重ね書

305 凡 ホム 上169 凡(ホム)\*夫(フ)モ \*ンの上に重ね書

これらの訂正例の中には異例と同じ「凡夫」も見られる。

以上のように臻・山撰の舌内鼻音韻尾字の表記に異例や訂正例がなく、深・咸撰の唇内鼻音韻尾字の表記に異例や訂正例が見られることは、唇内鼻音韻尾と舌内鼻音韻尾の区別が失われ、最終的に音韻としての撥音<sup>N</sup>に合流するという院政鎌倉期の漢字音の変化の流れの中に位置付けて捉える事が出来る。

二、入声韻尾字

以下、入声韻尾の諸字について考察したところを述べる。

1、通・江・宕・梗・曾攝（喉内入声韻尾字）

韻尾表記は表2に示したように、前接母音「i」の場合「iキ」、それ以外「iク」という表記の区別が見られる。

表2

前接母音	表記	ク表記	キ表記	その他
i		1	10	
e				
a		16		1
o		23		
u				

これは、喉内入声韻尾の表記として、平安時代以来安定した形に合うものである。

光明真言土沙勸信記の字音について

本撰には、促音化表記の例は見られない。次に字音振仮名の附された漢字の内、喉内入声韻尾字の後接字の子音が「k」である語を示した。当該字は複合語としては語中に位置するが、複合語の下位要素の中では語末に位置しており、複合語としての熟合度が低いために促音化表記されていないものと考えられる。

315 足 ソク

上164 頭(ツ)面(メン)接(セツ)足(ソク)歸命礼ト

331 索 シヤク 入濁

上052 不(上)フ(空)上(クウ)竊(平)クエン(素)入濁(シヤク)經ヲ

## 2、臻・山撰(舌内入声韻尾字)

韻尾表記は「一ツ」「一チ」である。

臻・山撰の舌内入声韻尾については、実際の音価及び表記の変遷について確定した説を見ないようである。諸説を概括すると、音価は室町時代末期まで多くの場合母音を伴わない閉音節であった。表記は「チ」表記から「ツ」表記へと移行して行く。その過程では、法華經字音読などの学問の場で先行母音の違いによって書き分けが行なわれたと言うものがある。林史典氏は法華經音読では、先行母音が後舌の「u」から「ツ」表記が行なわれるようになり、次第に前舌母音にまで「ツ」表記が広がり、先行母音「i」の場合が最後まで「チ」表記で残ったとされる<sup>6)</sup>。

本資料の舌内入声韻尾の「ツ」「チ」表記の区別も表3に示したように、その傾向に沿うものである。しかし、「チ」表記例を見ると、6例中4例が「實」であり、更にその内3例が「實相」という単語である。

364 實 シチ

入輕濁 上173 實(入輕濁)シチ相(平)サウヲ・

365 實 シチ

上174 實(シチ)相(サウ)

366 實 シチ

入輕濁 上251 假(平)ケ(實)入輕濁(シチ)\*ノ

367 實 シチ

上368 實(シチ)相(サウ)ナリ・

368 悉 シチ

入圈 上378 悉(入圈)シチ(地)平濁圈(チ)ヲ

\*朱筆シツに重ね書

385 別 へチ

上 387 無(ム)ニ無別(へチ)ナリ・

(同一字のツ表記例)

363 實 シツ 入 輕濁

上 058 一切如來眞(去)シ(ン)實(入輕濁)シツ本(平輕)ホ(ン)願(平濁)クワ(ン)大灌(去)クワ

シ(頂上濁)チャウ(光眞言加持土沙ノ・

384 別 へツ

上 375 妄(マウ)情(シャウ)分(フ)別(へツ)ノ

表 3

前接 母音	表記	ツ表記	チ表記	その他
i		6	5	
e		10	1	
a		4		1
o		3		1
u		8		

一方「實」には「ツ」表記もあることから、本資料の舌内入声韻尾表記は、原則として「ツ」表記とし、個別の単語の表記として、「チ」表記を採ったものと見る事が出来る。

光明真言土沙勸信記の字音について

実際の発音が表記の違いに対応したものであったかどうかは今明らかにし得ないが、次に示したように、「チ」「ツ」表記共に訂正例が見られる事から、「チ」「ツ」表記の区別には意が払われた事、舌内入声韻尾の表記が安定していなかった事が伺われる。

392 渴 カツ 入 上178 飢<sub>上</sub>(ケ)渴<sub>入</sub>(カツ)\*ノ \*朱筆カチに重ね書

366 實 シチ 入軽濁 上251 假<sub>平</sub>(ケ)實<sub>入軽濁</sub>(シチ)\*ノ \*朱筆シツに重ね書

本資料の場合、先行母音の違いに基づく書き分けという規範性を持ちながら、ゆれがあることを踏まえて、定着度の高い単語音については、規範にはずれた表記を行なったものと考えたい。

### 3、深・咸撰(唇内入声韻尾字)

本撰の入声韻尾表記は、本資料の字音片仮名表記中もつとも問題のあるものである。本撰の入声韻尾表記は、後に述べる無声子音が下接する事による促音化の表記「―ツ」を除くと、すべて「―ウ」表記である。更に注目すべきことは、「法」に対して平声点を差声しながら擦り消したという例を除いて「ウ」表記された字に声点差声例が見られない事である。

418 法 ホウ 平 上030 作<sub>平</sub>(サ)法<sub>平</sub>(ホウ)ハ・ \*朱平声点を擦り消し

ちなみに、同じく「ウ」表記される通・江・宕・梗・曾撰の喉内鼻音韻尾及び遇・效・流撰の諸字には入声・入声軽を除く各声点が差声された例がある。

通・江・宕・梗・曾撰字

平声29例 上声14例 去声19例 平声軽3例

遇・效・流撰字

平声12例 上声0例 去声6例 平声軽1例

また、通・江・宕・梗・曾撰字の喉内入声韻尾字、臻・山撰の舌内入声韻尾字には、入声・入声軽声点を差声した例が見られる。

通・江・宕・梗・曾撰字

入声 6 例 入声軽 9 例

臻・山撰

入声 11 例 入声軽 6 例

一方、本撰の唇内入声韻尾字に入声・入声軽声点を差声したものは次の 2 例で、いずれも「ツ」という促音化例と考えられるものである。

417 法 ホツ 入 上 010 法 (入) (ホツ) \*界 (平) 性 (平) 智 \*ツは朱筆擦り消しの上、下はウか

405 合 入 輕圈 別 239 合 (入) 輕圈 スルコト・

ここで、本資料と同時期に高山寺で作成された『新訳華嚴經音義』『貞元華嚴經音義』を見ると、深・咸撰の入声韻尾字で「ウ」表記されているものは 4 例のみであり、他は「フ」表記されている。

新四七オ 7 牀 (上) シヤウ撮 (平) タウ下音塔

新五三ウ 7 氈 (平) テウ線 (平) セン徒叶反

貞一六ウ 6 师 (去) サウ子合反

貞一八オ 5 牀 (上) シヤウ撮 (平) タウ他蓋反

このように高山寺においても經典の字音直読のような字問の場では、深・咸撰の入声韻尾字は「フ」表記が保たれていたことが分かる。なお、この 4 例で注意したいのは、4 例とも入声以外の声点が差声されている事である。このことは、これら 4 例に「ウ」表記がなされているのは、これらの諸字が入声韻尾以外の字と誤認されたためであると考えられる。

一方、本資料の深・威撰の入声韻尾諸字に声点差声例が見られないのは、これらの諸字が本来入声韻尾を有する字である事が認識されており、片仮名表記として「ウ」表記を採ったため入声点が差声できなくなったためと考えられる。

つまり、本資料の唇内入声韻尾の片仮名表記は、本資料の「在家ノ信ヲス、ムル」という著述意図を反映して、仏典の字音直読のような、漢字音を国語音と区別して学習伝承した場では理解されていて、そのような区別をしない一般的な場での漢字音としては「u」と区別がなくなっていた唇内入声韻尾について、一般的な場での発音に即した表記を採ったものと見ることが出来る。

本資料及び『新訳華嚴經音義』『貞元華嚴經音義』は、ともに入声韻尾仮名表記と入声点差声との対応という点から見ると、韻尾仮名表記「フ・ツ・ク・チ・キ」に対して入声点が差声されている（本資料では、韻尾仮名表記「フ」はなので、「ツ・ク・チ・キ」に対して入声点が差声されている）点で共通する。しかし、『新訳華嚴經音義』『貞元華嚴經音義』では、右に示した例から見取れるように、韻尾の認定と韻尾仮名表記と声点差声とが一連の対応関係として把握されている。これに対して本資料では、以上述べてきたことより、韻尾仮名表記と声点差声との対応関係は『新訳華嚴經音義』『貞元華嚴經音義』と同じであるが、韻尾の認定と韻尾仮名表記との間にずれがあり、そのずれが認識されていたと言うことができる。

本撰の入声韻尾表記についても一つ注目すべきことは、促音化表記である。本資料の深・威撰の入声韻尾字の促音化表記は表4に示したように、いずれも後接子音が無声子音の場合に見られるが、これらの中には後接の和語部分の無声子音の影響によって促音化した発音を表記したと見られるものがある。

400 立リツ

上648 立(リツ)スト

402 合カツ

上069 合(カツ)\*スルコト・\*ツは朱筆擦り消しの上



417	408	407	404
法	接	答	合
ホツ	セツ	タツ	カツ
	入		
上 010	上 164	上 051	上 385
法(入)	頭(ツ)面(メン)	答(タツ)	合(カツ)
ホツ)	接(セツ)	*スルニ	*シテ
*界(平聲)	*足(ソク)	*ツは朱筆擦り消しの上、下はウか	*朱筆カウに重ね書
カイ) 腭性(平)	歸命(礼ト)		
智	*ツは朱筆擦り消しの上		
	下はウか		

表 4

後接子音		表記		ツ表記	ウ表記	その他
		部漢分語	部和分語			
有聲子音	部漢分語				4	1
	部和分語				6	
無聲子音	部漢分語		2			
	部和分語		4		3	
なし					1	

右に示した用例の内「立ス」「合ス」「答ス」は、漢語サ変動詞の「ス」というサ変動詞部分の影響を受けて、漢語部分が促音化したと考えられるものである。このように、本資料の字音片仮名表記には単字音の表記とは異なる形が単語音

の表記として採られている。そしてその単語音とは日本語文脈の中で用いられるものであったと考えられる。

なお、本資料の唇内入声韻尾の「ウ」表記が音韻「u」を示すものとするならば、すでに促音化に関しては生産性を失っていた訳であるから、これらの促音化表記は、促音化に關して生産性を有していた時期、音韻としては「P」或は「Φ」乃至「Φu」であった時期に、促音化形で単語音として定着したものが採られたものと考えられる。漢語サ変動詞の促音化例について言えば、その時期は、日本語文脈中で用いられた漢字音がハ行転呼の現象によって「u」となる前の時期であったと考えられる。

### 三、拗音表記

以下、拗音表記の諸字について考察したところを述べる。

#### 1、合拗音表記

本資料の合拗音表記はすべてカ・ガ行のもののみである。

38	廣	クワウ	219	眷	クエン	平	241	元	クワン	去濁	242	願	クワン	平濁
243	願	クワン	244	願	クワン		260	玄	クエン		261	玄	クエン	
266	羈	クエン	平	274	歡	クワン	去	275	觀	クワン	去	276	觀	クワン
277	灌	クワン	去	278	翫	クワン	平	278	軌	クキ	上	278	歸	クキ
510	鬼	クキ		511	巍	クキ	平	511	懷	クワイ	平	511	懷	クワイ
554	悔	クワイ	平	712	火	クワ		527	懷	クワイ	平	528	懷	クワイ
718	果	クワ	平	722	化	クエ		713	火	クワ		717	果	クワ
726	華	クエ		727	華	クエ	上	723	化	クエ	平濁	725	華	クエ

また、臻撮合転樟韻・術韻はすべて開拗音表記であつて、合拗音表記は見られない。

樟韻

178 順 シユン  
179 順 シユン 平輕濁  
180 順 シユン 平濁

術韻

372 出 シユツ 入  
373 出 シユツ  
374 術 シユツ  
375 術 シユツ

376 述 シユツ 入輕  
377 述 シユツ

本資料は仏教教説の書であつて、呉音表記が中心であり、若干見られる漢音表記も本資料が在家を対象としたものであることから、漢籍読誦の場合のような前代の原音を反映した表記をそのまま伝承するといった保守性がなかつたためと考えられる。

2、開拗音表記

表5

開拗音表記				韻尾
iウ	iヨウ	iユウ iユ	iヤウ	ŋ
		iユン		n
				m
iク	iヨク	iユク	iヤク	k
		iユツ		t
		iユ		p
				i
iウ	iヨ	iユ		u
			iヤ	a

光明真言土沙勸信記の字音について

表5のように、各韻尾毎に開拗音表記を整理して見ると、通・江・宕・梗・曾撮字のり韻尾字及び遇・效・流撮のu韻尾字に見られる「iウ」という割音表記と、「iユ」という拗短音表記及び「iユウ」という拗長音表記の区別が問題となる。

この内、「iウ」表記と「iユ」表記とは表1で分かるように通撮東・鍾韻字、遇撮虞韻、流撮尤・幽韻字にそれぞれ両表記が見られ、書き分けが問題となる。

iウ表記

通撮(喉内鼻音韻尾)字

18 中 チウ 19 中 チウ \*21 終 シウ 平圈 29 重 チウ 平輕濁

30 重 チウ 31 龍 リウ 32 龍 リウ 33 龍 リウ

遇・流撮字

618 住 チウ \*665 丘 キウ 平輕 \*666 丘 キウ \*687 幽 イウ 平輕圈

iユ表記

通撮(喉内鼻音韻尾)字

22 衆 シユ 23 衆 シユ 34 誦 シユ

遇・流撮字

619 珠 シユ 620 須 シユ 673 就 シユ 674 周 シユ

675 周 シユ 676 咒 シユ 平 677 咒 シユ 678 修 シユ 上

679	修	シユ	上	680	修	シユ
683	受	シユ		684	受	シユ
				685	受	シユ
				681	受	シユ
						平濁
				682	受	シユ
				686	受	シユ

i ユウ表記

通撰(喉内鼻音韻尾)字

24 宗 シユウ

これらの諸字の内、漢音表記と考えられる\*21終・\*665\*666丘・\*687幽を除くと、第一音節がサ・ザ行のものに「iユ」の拗音表記(1例「宗」字のみ「iユウ」表記)、それ以外のものに「iウ」の割音表記という区別が見られる。これらの諸字の他資料での呉音表記を見ると、第一音節サ・ザ行のものみに、「iユ」「iユウ」の拗音表記が見られる。

通撰(喉内鼻音韻尾)字

中 (単字)× (音訓) チウ、上・去 (名義) チウ<sup>レ</sup> (蒙求)× (三藏)×

\*終 (単字)シユウ、去 (音訓) シユウ、去濁 (名義) シユウ (蒙求)シユウ (蒙求)シ□<sup>(ウ?)</sup> (三藏)×

重 (単字)チウ、平 (音訓) チウ、平濁・去濁 (名義) 地ウ<sup>レ</sup> (蒙求)チヨウ (三藏)

龍 (単字)× (音訓) リウ、上・去 (名義) リウ<sup>レ</sup> (蒙求)× (三藏)×

衆 (単字)× (音訓) シユ・シユウ、平・上・去 (名義) シウ<sup>レ</sup> (蒙求)× (三藏)×

誦 (単字)シユウ、平 (音訓) シユウ、平濁 (名義) 受ウ (蒙求)× (三藏)シヨウ、去

宗 (単字)シユウ、去 (音訓) シウ、去 (名義) 主ウ (蒙求)ソ・ソウ (三藏)ソウ・平輕

遇・流撰字

住 (単字)× (音訓) チウ、平濁 (名義)× (蒙求)× (三藏)×

\*丘 (単字)× (音訓) ク、上 (名義) ク<sup>●</sup> (蒙求)× (三藏)×

光明真言土沙勸信記の字音について

\*幽

(単字) エウ、去 (音訓) エウ、去 (名義) エウ (蒙求) イウ (三藏) ×

珠

(単字) シユ、上 (音訓) シユ、上・去 (名義) × (蒙求) シウ・シユ・ス (三藏) ×

須

(単字) シウ、去 (音訓) シユ、上 (名義) シユ (蒙求) スウ (三藏) ×

周

(単字) シユ、去 (音訓) シユ、上・去 (名義) シウ (蒙求) シユ・シウ (三藏) ×

咒

(単字) シユ (音訓) シユ、平 (名義) シフ (蒙求) × (三藏) ×

受

(単字) シユ (音訓) シユ、平濁 (名義) × (蒙求) × (三藏) ×

就

(単字) シユク、平 (音訓) シユ、平濁 (名義) シウ (蒙求) × (三藏) ×

修

(単字) シユ、去 (音訓) シユ、上・去 (名義) × (蒙求) × (三藏) シウ、平濁

本資料の表記は、このような表記の違いを受け、更に原則として「iユウ」という拗長音表記を避けたものと考えられる。このような表記の区別が如何なる発音の違いに対応したものを明らかにするためには、開拗音とその表記の史的変遷を明らかにする必要があるが、従来の諸研究<sup>7)</sup>に基づいて現在のところ次のように考えている。

日本漢字音(吳音)として、サ・ザ行の頭子音が拗音化に関して何等かの機能を果たしたものと考えられる。その内、通撰に「シユウ」表記が見られるのは、「ウ」が喉内鼻音韻尾「r」の表記であったからである。他の資料の遇・流撰に「シユ」表記と「シウ」表記とが見られるのは、拗音表記のゆれと考えられる。一方、通撰に「シユ」表記が見られるのは、喉内鼻音韻尾「r」が母音「u」に変化して、遇・流撰と同じ一音節化した発音になった場合の表記である。

他の行に「iユウ」表記が現れるのは、和語における「言う」が「ユウ」となる音変化の現象と軌を一にする現象が、漢字音においても発生して後のことであり、サ・ザ行の拗音化より後のことである。

本資料の開拗音の「iウ」「iユ」の表記の区別は、サ・ザ行が拗音化し、他の行の拗長音化が起る前の時点における発音の違いを反映した表記と看做す事が出来る。

同様のことは、通摂屋韻の唇内入声韻尾字「iク」表記と「iユク」表記にも言える。当該例は次の2例である。

308 畜 チク

310 閃 シユク

サ行の方が拗音表記となっており、韻尾が母音化しないことを除けば、右に述べた筋道で解釈できる。

ただ一例、通摂冬韻の「宗」字が「iユウ」表記で問題となる。通摂の「シユウ」表記は、右に述べたところでは、韻尾の鼻音性が保持されていた時点での表記という事になる。ただ、本資料の、在家の者の理解可能な漢字音として喉内鼻音があつたとは考えにくく、実際に拗長音化した発音で個別の漢字の音として固定していたものであつただらうと考えられる。「宗」字の「iユウ」表記及び他資料の呉音表記に喉内鼻音韻尾字でサ・ザ行のものに限って「iユ」表記と「iユウ」表記の両方が見られることから、韻尾が鼻音性を失ったことによる一音節化した発音と、「シユウ」という表記に引かれて拗長音化した発音との間でゆれがあつたのではないかと考える。本資料の場合、実際の発音の違いに基づきながら規範性を持った整理を行ない、サ・ザ行「シユ」・それ以外の行「iウ」の書き分けを行なつた。ただし、個別の漢字の音として拗長音形で定着しているものは、拗長音表記を行なつたと考えたい。

拗長音化に関するもう一つの問題は、通摂鍾韻・曾摂蒸韻字の「iヨウ」表記と、效摂肴韻・宵韻・蕭韻字の「eウ」表記との混乱である。本資料に混乱の例は見られないが、1例、蒸韻字の「稱」に「セ」を擦り消した上に「シヨ」と書かれたものがある。

135 稱 シヨウ 去 上147 稱去(シヨウ)\*讚平(サン)如來ト・ \*薄朱セを擦り消した上にある

#### 四、連濁表記

本資料に見られる字音の連濁表記は、本資料に用いられている漢字音が、単語音のレベルのものであつたことを示していると考えられるので、ここに併せて述べる。なお、本資料に見られる字音の連濁については、既に拙著に述べてい

(8) ののでここでは要点のみを述べるにとどめた。

まず、声点として双点が差声され連濁である事が確認される例は、すべて上接字が鼻音韻尾字の場合である。一方上接字が鼻音韻尾字であつて声点として単点が差声され、連濁していない例と比較すると、次に示したように、連濁例では「眞言師」を除いて、一単語と意識して用いられたと考えられる二字漢語の二字目が連濁している。これに對して、非連濁例では、複合語として見れば上に鼻音韻尾字が来るが、複合語を構成する下位要素に分かつならば、鼻音韻尾字とは別の要素に分かたれ、下位要素としては一字目に位置するものが多い。

a、連濁例(当該字に傍線を附す)

上接字 喉内鼻音韻尾

319 十地十等覺 287 黄金 736 亡者 125 平等十性十智 600 冥途 601 冥途

上接字 舌内鼻音韻尾

118 一切十如來十眞實十本願十大十灌頂十光十眞言十加持十土沙 646 元曉 331 不空十絹索十經 492 縁起十難思

474 縁起十難思 470 眞言十師 723 變化十身 472 歡喜十愛敬 144 善根 535 邊際 369 温室 235 神反

222 展轉十同説 398 妙十觀察十智 270 眼前

上接字 唇内鼻音韻尾

110 妙十音聲

b、非連濁例(当該字に傍線を附す)

上接字 喉内鼻音韻尾

718 増上十果 249 講讚 665 青丘十大師 266 不空十絹索十經 250 稱讚十如來 390 展轉十同説

577 成十所作十智



上接字 舌内鼻音韻尾

382 毛端十刹海 88 大十圓鏡十智 582 親疏 657 本十不生 86 順行

上接字 唇内鼻音韻尾

164 深十信解十力

鼻音韻尾に下接する場合の連濁現象は連音上の音変化の現象であつて、本来連続されれば連濁する可能性を有するものであるが、本資料では、音声的には同条件であつても、単語としての熟合度によつて連濁表記するか否かが選択されたものと考えられる。

このことと先に述べた唇内入声韻尾字の促音化表記と併せて考えると、本資料の漢字音は単語音が重視されたものと見ることが出来る。

## むすび

以上、本資料の字音振仮名が附された漢字を分韻表に整理したものに基ついて、主に鼻音韻尾・入声韻尾・拗音及び連濁表記について考察したところを述べた。これらより、本資料の漢字音表記及びその背景にある漢字音の性格として、次のようなことが指摘できる。

まず、表記に統一性・規則性が見られるということである。このことは韻母表記を分韻表の形に整理したのを見ることによつて看取せられる。本資料に見られる字音振仮名の訂正例を見ると、訂正前の形として院政鎌倉期以降の漢字音の変化を反映した表記が見られ、それを訂正して院政鎌倉期以降の漢字音の変化を反映しない表記に改められている。このことから、統一的・規則的表記として具体的に指向されたものは、院政鎌倉期以降の漢字音の変化を反映しない表記であつたと考えられる。しかし、唇内入声韻尾字には、訂正例としてではなく、一貫して「一ウ」表記がなされてい

る。この時期に、唇内入声韻尾が音韻としては「P」或は「Φ」乃至「Φu」であつて、表記として「フ」が保たれてきた場があつたと考えられるが、和語においてはハ行転呼の現象は平安後期にかなり一般化しており、漢字音を国語音と区別することなく使用する一般的な漢字音使用の場では、唇内入声韻尾の音韻は「u」となり、表記も「ウ」となつたと考えられる。よつて、唇内入声韻尾が一貫して「ウ」表記されていることは、本資料の漢字音表記の規準の不統一と見るべきではなく、「在家ノ信ヲス、ムル」という著述意図に従つて、安貞二年という時点で在家の者に示して理解される漢字音表記、つまり經典字音直読のような学問の場での漢字音ではなく、一般的な場での漢字音として統一性・規則性を持った表記を行なつたものと考えられる。

次に、本資料の字音振仮名を附した者の、本資料の漢字音に対する意識について考えてみたい。

まず、唇内入声韻尾が一貫して「ウ」表記されながら、声点がまったく差声されていない事より、本資料の字音振仮名を附した者の漢字音認識の基底にあるのは、学問（高山寺の場合には華嚴經字音直読）の場での漢字音認識であつたといふことができる。本資料の漢字音表記に見られる規則性・統一性はこのような漢字音認識に支えられたものと考えられる。つまり、漢（中国語）文脈→日本語文脈・学問的→一般的という点では対照的な位置にありながら、本資料の漢字音は規範意識という点では經典字音直読の場での漢字音と共通するものである。しかし、実際の表記は学問の場での漢字音表記と全同ではない。唇内入声韻尾が「ウ」表記されている事から、学問の場から離れた一般的な場での漢字音として、学問の場での漢字音と隔たりが大きかつたと考えられる漢字音については、一般的な場での漢字音に基づく表記を採つている。つまり、本資料の字音振仮名を附した者の漢字音認識は、重層的なものであつたといふことが出来る。

また、本資料の字音振仮名を附した者の漢字音認識の基底にあると考えられる經典字音直読の場における漢字音は漢（中国語）文脈中における漢字音であり、その漢字音認識は基本的には個々の漢字毎に字音を捉える単字音認識であつたと考えられる。しかし本資料では、唇内入声韻尾促音化表記・連濁表記などに見られるように、単語音として単字音と

異なる漢字音が表記されている。このことから本資料では、単字音認識を基底としながら単語音を重視しているということが出来る。更に唇内入声韻尾促音化表記に漢語サ変動詞の促音化表記が見られる事から、その単語音とは日本語文脈中において使用される単語音であったと考えられる。

なお、本資料の漢字音を経典字音直読における漢字音と対照的な位置に置くならば、その間には漢文訓読における漢字音が位置付けられる。本放では、明恵を中心とした高山寺教学の下での漢文訓読における漢字音については取上げられなかったが、次のようなことが予想される。漢文訓読も訓読されたものは日本語文であり、その漢字音は、日本語文脈中に用いられたものであつて、単字音とは異なる単語音形が認められる可能性があり、それは本資料と共通するものと考えられる。しかし、漢文の訓読はあくまでも学問的な営為であり、その点では「在家ノ信ヲス、ムル」という著述意図を持つ本資料の漢字音とは異なつたものが見られることが考えられる。

#### 注

- (1) 複製として、『明恵上人手訂定稿本(重文) 光明真言土沙勤信記 附 同如來遺跡講式』(勉誠社 昭和六〇年七月) 翻字として、『大東急記念文庫蔵光明真言土沙勤信記総索引本文篇』(三保忠夫 昭和五〇年一〇月) がある。
- (2) 『明恵上人資料第一(高山寺資料叢書第一冊)』(東京大学出版会 一九七一年三月) に所収
- (3) これらの音義は『高山寺古辞書資料第二(高山寺資料叢書第十二冊)』(東京大学出版会 一九八三年二月) に影印と索引が収められている。

それぞれの音義には、次の様な奥書がある。

『新譯華嚴經音義』

(本奥書) 嘉祿三年丁未六月二日 西於西山

梅尾之禪房集兩三本之音義

『貞元華嚴經音義』

(奥書) 安貞二年四月廿六日書寫畢

校畢

抄寫之偏為自行轉讀敢不  
可及外見矣

花嚴宗沙門喜海

(追筆) 交了

(別筆) 寛喜元年八月十八日与

五六輩交合再治了

寛喜元年八月廿七日魁子

點并假名數( )交檢畢

(裏表紙内) 安貞二年四月廿四日於高山寺草室書寫了

これらの音義は高山寺で行なわれた華嚴經字音直読のために作成されたものと考えられる。このことについては、沼本克明氏が、「高山寺字音資料について」『高山寺典籍文書の研究(高山寺資料叢書 別冊)』(東京大学出版会 一九八〇年一月)に述べておられる。

(4) 池上禎造「方」字の合音用法」(島田教授古稀記念国文学論集 昭和三五年三月)

福島邦道「四方なる石」(国語学 四六輯)

(5) 高松政雄「日本漢字音の研究 第四章 諸問題・各論 一「南北相違抄」」(風間書房 昭和五七年九月)

(6) 林史典「呉音のかな表記における舌内および喉内入声音のかきわけについて」(千葉大学教育学部研究紀要 第二三卷第一部) 同『日本語の世界 4 日本の漢字 第5章 日本の漢字音 二 日本漢字音の特徴』(中央公論社 昭和五七年六月)

(7) 専論としては次の様なものがある。

佐藤喜代治「イウからユウへの転化の問題」(国語学研究 3)

高松政雄「ウ段拗音」(国語国文 第三九卷第七号)

沼本克明『平安鎌倉時代に於る日本漢字音に就ての研究 第二部 漢音論 第二章 漢音に於る和化事象の検討 第一節 漢音の和化の具体相——蒙求字音点を通して探る——第三節 纏め』(武蔵野書院 昭和五七年三月)

同『日本漢字音の歴史 第三章 平安後期以後の漢字音 第五節 平安後期以後の漢字音の変化』（東京堂出版 昭和六一年六月）

江口泰生「シウ・シユ・シユウ」（文献探求 第一八号）

(8) 拙放「光明真言土沙勸信記における字音の清濁について——連濁に関する考察を中心として——」（東洋大学短期大学紀要 第一九号）

〔附記〕

本放は、広島大学国語文学会昭和六十年秋期研究会・同学会昭和六三年度春期研究会及び昭和六三年度鎌倉時代語研究会夏期研究会において発表したものをまとめ、更に考察を加えたものである。席上、小林芳規先生・室山敏昭先生・沼本克明先生より種々の御教示を頂いた。又、稿を成すに当って、小林先生に御助言を頂いた。ここに記して学恩に謝する次第である。

## 附 大東急記念文庫蔵『光明真言土沙勤信記』字音振仮名・声点付き漢字分韻表

一、本分韻表は、大東急記念文庫蔵『光明真言土沙勤信記』において字音振仮名及び声点が附された漢字について、作成したものである。

二、撰の配列は次の通りである。

通撰・江撰・宕撰・梗撰・曾撰・臻撰・山撰・深撰・咸撰（入声韻を除く）

通撰・江撰・宕撰・梗撰・曾撰・臻撰・山撰・深撰・咸撰（入声韻）

止撰・蟹撰・遇撰・效撰・流撰・果撰・假撰

三、上声・去声韻はそれぞれ対応する平声韻のもとに収めた。

四、表中、各漢字についてA用例番号・声母・開合・等位・漢字・字音振仮名・声点・所在・用例Vを示した。

本資料には陀羅尼誦誦音の振仮名表記されたものがある。その用例には用例番号の下に\*を附した。

用例において、振仮名・声点は当該漢字の下に括弧に入れて示した。括弧の区別は次の通りである。

（ ）は朱筆、〔 〕は濃墨筆、「 」は薄墨筆

補、本分韻表の作成には、パーソナル・コンピュータPC19801VM及びMS-DOS上の諸アプリケーションを利用した。

基本的な入力と出力にはワードプロセッサ・ソフト「新松」を使用し、ソーティング等にはデータベース・ソフトdBASE IIIを使用した。また、データは総索引作成のためのものを活用した。

プリントアウトにはパソコン用漢字プリンタを使用したもので、漢文字体はJIS第2水準までに含まれているものをできるだけ使用した。異体字等で著しく字体の異なるものは外字を作成して充てたが、字体の相違が極く小程度のもの（「者」↓「者」等）はそのまま用いている。

通撰(除人声韻)

東	用例 番号	声 母	開合	等 位	漢 字	字 音 振仮名	声 点	所 在	用 例
	1	喻	開	四	融	ユウ	上	上139	六相(サウ)圓(マ)エ(エン)融(上)ユウ。
	2	喻	開	四	融	ユウ		上175	相(サウ)融(ユウ)ス。
	3	見	開	一	功	クウ		上177	功(クウ)力(リキ)ニヨリテ。
	4	見	開	一	功	クウ		上195	功(クウ)德(トク)。
	5	見	開	一	功	クウ		上363	功(クウ)能(ノウ)モ
	6	見	開	三	宮	クウ		上480	龍(リウ)宮(クウ)ニ
	7	溪	開	一	空	クウ	上	上408	不(上)空(クウ)成(シヤウ)就(シユ)佛ナリ。
	8	溪	開	一	空	クウ	上	上552	不(上)空(クウ)空(クウ)續(平)クエ(エン)索(入)シヤク(ク)經ヲ
	9	溪	開	一	空	クウ		上571	大虚(ゴ)空(クウ)海(カイ)ノコトクシテ。
	10	溪	開	一	空	クウ	上	上653	不(上)空(クウ)三藏。
	11	群	開	三	窮	クウ		上165	周(シユ)遍(ヘン)無(ム)窮(クウ)ノ
	12	端	開	一	棟	トウ	去	上486	棟(トウ)梁(リヤウ)ナリ。
	13	透	開	一	通	ツウ		上505	通(ツウ)用(ヨウ)ノ
	14	定	開	一	同	トウ		上124	同(トウ)ス。
	15	定	開	一	同	トウ		上169	同(上)トウ)ス。
	16	定	開	一	同	トウ		上216	展(平)チン)轉(平)テン)同(去)トウ)説(入)セツ)スルハ。
	17	定	開	一	同	トウ		上536	同(去)寐(平)ノ
	18	知	開	三	中	チュウ	去濁	上184	病(ヒヤウ)中(チュウ)ノコトヲ
	19	知	開	三	中	チュウ	去濁	上166	日(ニツ)中(チュウ)ノ

光明真言工沙勤信記の字音について

20	精	開	一	惣	ソウ	上162	惣(ソウ)礼(ライ)ニモ
21	照	開	三	終	シウ	別270	終(平聲)一焉(平聲)(エン)ヲ
22	照	開	三	衆	シユ	上202	衆(シユ)縁(エン)・
23	照	開	三	衆	シユ	上388	衆(シユ)生(シヤウ)身(シン)ニ

冬	精	開合	一	宗	シユウ	上187	宗(シユウ)トス・
---	---	----	---	---	-----	------	-----------

鐘	奉	開合	三	奉	フ	上070	奉(平聲)行(平聲)(キヤウ)セサラムト
26	諭	開合	四	用	ヨウ	上005	通(ツウ)用(ヨウ)
27	諭	開合	四	用	ヨウ	上393	用(ヨウ)ヲ
28	澄	開合	三	重	チウ	上394	受(シユ)用(ヨウ)スルカコトシ・
29	澄	開合	三	重	チウ	上072	重(平聲)病(平聲)(ヒヤウ)ヲ・
30	開合	三	重	重	チウ	上153	無盡(シン)重(チウ)ヲ・
31	開合	三	龍	龍	リウ	上078	龍(リウ)神(シン)
32	開合	三	龍	龍	リウ	上080	龍(リウ)宮(クウ)ニ
33	開合	三	龍	龍	リウ	上088	龍(リウ)神(シン)
34	開合	四	誦	誦	シユ	上144	受(シユ)持(チ)讀(トク)誦(シユ)スル・

江	江撰(除人声韻)						
---	----------	--	--	--	--	--	--



右撰(除人声韻)

35	見	開合	二	講	カウ	上	上082	講 <sup>上</sup> (カウ)讀 <sup>平</sup> (サン)セシメテ。
----	---	----	---	---	----	---	------	---------------------------------------------

唐		匣	剛	黃	去	上124	黃 <sup>上</sup> (ワウ)金 <sup>上</sup> (コム)ナレハ。
36	見	開	剛	カウ		上081	金(コム)剛(カウ)三昧(マイ)經ト。
37	見	合	剛	クワウ		上143	無量廣(クワウ)大ノ。
38	見	合	廣	クワウ		上077	大 <sup>上</sup> (タイ)唐 <sup>平</sup> (タウ)ハ
39	定	開	唐	タウ	平	別252	蕩 <sup>平</sup> (タウ)ニタル
40	定	開	蕩	タウ	平	上013	阿(ア)謨(ホ)伽(キヤ)吠(ハイ)嚕(ロ)遮(シヤ)曩(ナウ)ト
41*	泥	開	曩	ナウ	平		
陽							

42	非	開	方	ハウ	去	上049	方 <sup>上</sup> (マ)ハウ)便 <sup>平</sup> (ハ)ン)シテ。
43	非	開	方	ハウ	去	上073	方 <sup>上</sup> (マ)ホウ)藥 <sup>入聲</sup> (ヤク)
44	非	開	方	ハウ	去	上123	方 <sup>上</sup> (マ)ハウ)面 <sup>平</sup> (メン)ニ。
45	非	開	方	ハウ	去	上133	方 <sup>上</sup> (マ)ハウ)便 <sup>平</sup> (ハ)ン)ニヨリテ。
46	非	開	方	ハウ	上	上200	治 <sup>上</sup> (チ)方 <sup>上</sup> (ホウ)ナリ。
47	非	開	方	ハウ	上	上043	大悲無方(ハウ)ナリ。
48	微	開	亡	マウ	去	上034	亡 <sup>上</sup> (マ)マウ)者 <sup>平</sup> (シヤ)ノ
49	微	開	網	マウ	去	上057	因 <sup>上</sup> (マ)イ)陀 <sup>上</sup> (タ)羅 <sup>上</sup> (ラ)網 <sup>上</sup> (マウ)境 <sup>上</sup> (キヤウ)界 <sup>上</sup> (カイ)門 <sup>上</sup> (モン)
50	微	開	妄	マウ	去	上075	妄 <sup>上</sup> (マウ)情 <sup>上</sup> (シヤウ)分 <sup>上</sup> (フン)別 <sup>上</sup> (ハツ)ノ
51	微	開	妄	マウ	去	上082	衆生妄 <sup>上</sup> (マウ)情 <sup>上</sup> (シヤウ)ノ
52	曉	開	香	カウ	去	上1209	香 <sup>上</sup> (カウ)象 <sup>上</sup> (サウ)大師 <sup>上</sup> ノ

光明真言工沙勒信記の字音について

53	曉	開	三	向	カウ	平	上60	歸 <sup>(上)</sup> (クキ)向 <sup>(平)</sup> (カウ)シタテマツル。
54	諭	開	四	様	ヤウ	平	上158	様(ヤウ)モ
55	于	合	三	王	ワウ	上	上1093	仁 <sup>(去)</sup> (ニン)王 <sup>(上)</sup> (ワウ)會 <sup>(エ)</sup> ノ
56	于	合	三	往	ワウ	上	上1041	往(ワウ)生スルナリ。
57	疑	開	三	仰	カウ	濁	上1083	信(シン)仰 <sup>(平濁)</sup> (カウ)シテ。
58	疑	開	三	仰	カウ	濁	上1218	信(シン)仰(カウ)受(シユ)持(チ)シテ。
59	澄	開	三	長	チャウ	去濁	上1643	長 <sup>(去濁)</sup> (チャウ)舌 <sup>(入濁)</sup> (セツ)
60	來	開	三	梁	リヤウ	平	上1086	棟 <sup>(去)</sup> (トウ)梁 <sup>(平)</sup> (リヤウ)ナリ。
61	來	開	三	量	リヤウ	平	上120	無 <sup>(ム)</sup> 量(リヤウ)无 <sup>(ム)</sup> 邊(ヘン)ナルヘキナリ。
62	照	開	三	章	シヤウ	去	上197	唯(ユイ)識(シキ)章(シヤウ)ニ。
63	照	開	三	章	シヤウ	去	上1654	一章(シヤウ)ヲ
64	照	開	三	障	シヤウ	平	上1404	障 <sup>(平)</sup> (シヤウ)導 <sup>(平濁)</sup> (ケ)
65	牀	開	二	狀	シヤウ	上濁	上1089	奏 <sup>(平)</sup> (ソウ)狀 <sup>(上濁)</sup> (シヤウ)ノコトクニ。
66	心	開	四	相	サウ	去	上146	相 <sup>(去)</sup> (サウ)續 <sup>(入濁)</sup> (ソク)シテ。
67	心	開	四	相	サウ	去	上175	相(サウ)融(ユウ)ス。
68	心	開	四	相	サウ	去	上376	相(サウ)應 <sup>(上濁)</sup> (ヨウ)物 <sup>(入濁)</sup> (モツ)ト
69	心	開	四	相	サウ	平	上139	六相(サウ)圓 <sup>(去)</sup> (エン)融 <sup>(上)</sup> (ユウ)。
70	心	開	四	相	サウ	平	上173	實 <sup>(入濁)</sup> (シチ)相 <sup>(平)</sup> (サウ)ヲ。
71	心	開	四	相	サウ	平	上174	實(シチ)相(サウ)
72	心	開	四	相	サウ	平	上196	至 <sup>(上)</sup> (シ)相 <sup>(平)</sup> (サウ)大師ノ
73	心	開	四	相	サウ	平	上368	實(シチ)相(サウ)ナリ。
74	邪	開	四	象	サウ	平	上209	香(カウ)象(サウ)大師ノ
75	審	開	三	賞	シヤウ	平	別644	賞 <sup>(平濁)</sup> (シヤウ)一 <sup>(平濁)</sup> 旣 <sup>(平濁)</sup> (クワン)スハシ。
76	禪	開	三	上	シヤウ	平濁	上398	增 <sup>(去濁)</sup> (ソウ)上 <sup>(平濁)</sup> (シヤウ)果 <sup>(平)</sup> (クワ)ナルカユヘニ。

梗撰(除入声韻)

77	並開	三	平	去濁	上1010	平(去濁)(ヒヤウ)等(平濁)(トウ)性(平)智・
78	並開	三	病濁	上1072	重(平濁濁)(チウ)病(平濁)(ヒヤウ)ヲ・	
79	並開	三	病濁	上1184	病(ヒヤウ)中(チウ)ノコトヲ	
80	明開	三	病濁	上1242	法眼(ケン)開(カイ)明(ミヤウ)ノ	
81	影開	三	平濁	上1163	十方諸佛影(ヤウ)現(平濁)(ケン)中・	
82	開	二	平濁	上1030	眞言行(キヤウ)者(シヤ)ノ	
83	開	二	平濁	上1070	奉(平濁濁)(フ)行(平濁)(キヤウ)セサラムト	
84	開	二	平濁	上1094	智(チ)行(キヤウ)ヲ	
85	開	二	平濁	上1154	行(キヤウ)願(クワン)力(リキ)ト・	
86	開	二	平濁	上1647	順(平濁濁)(シユン)行(平濁)スルコト	
87	開	二	平濁	上1657	三時練(三)(レン)行(平濁)(キヤウ)ノツイテニ・	
88	開	三	鏡濁	上1010	大圓(大)(エン)鏡(平)(キヤウ)智・	
89	開	三	敬濁	上1142	礼(平)(ライ)敬(平)(キヤウ)諸佛等ノ	
90	開	三	敬濁	上1145	礼(ライ)敬(キヤウ)シタテマツル・	
91	開	三	敬濁	上1152	礼(ライ)敬(キヤウ)・稱(シヨウ)讚(サン)等・	
92	開	三	敬濁	上1237	歡(喜)(クワン)喜(平濁)(キ)愛(平)(アイ)敬(平)(キヤウ)シテ・	
93	開	三	敬濁	上1262	信敬(平)(キヤウ)セムモノハ・	
94	開	三	敬濁	上1229	究(ク)竟(キヤウ)成佛ノ	
95	合	一	境濁	上1167	因(ま)(イン)陀(上濁)(タ)羅(上濁)(ラ)網(上濁)(マウ)境(キヤウ)界(カイ)門ノ	
96	合	一	境濁	上1181	境(キヤウ)界(カイ)ニ・	
97	開	二	生濁	上1008	寶(平)(ホウ)生(平)・	
98	開	二	生濁	上1025	本(平濁)(ホン)不(上濁)(フ)生(上濁)(シヤウ)ニシテ・	
99	開	二	生濁	上1385	衆(シユ)生(シヤウ)身(シン)ニ	

光明真言工沙勒信記の字音について

100	清	清	四	請	シヤウ	平	上1087	召 <small>(ま)</small> (チウ)請 <small>(ま)</small> (シヤウ)シテ。
101	清	開	四	請	シヤウ		上1094	召 <small>(ま)</small> (チウ)請 <small>(ま)</small> (シヤウ)セムト。
102	從	開	四	情	シヤウ		上1375	妄 <small>(まウ)</small> 情 <small>(シヤウ)</small> 分 <small>(フン)</small> 別 <small>(ハツ)</small> ノ
103	從	開	四	情	シヤウ		上1382	衆生妄 <small>(マウ)</small> 情 <small>(シヤウ)</small> ノ
104	從	開	四	淨	シヤウ		上176	淨 <small>(シヤウ)</small> 土 <small>(ト)</small> ノ
105	照	開	三	正	シヤウ		上1649	正 <small>(シヤウ)</small> 文ナリ。
106	心	開	四	性	シヤウ	平	上1009	躰 <small>(ま)</small> (タイ)性 <small>(ま)</small> (シヤウ)ハ。
107	心	開	四	性		平	上1010	法 <small>(ハ)</small> (ホツ)界 <small>(ま)</small> (カイ)躰性 <small>(ま)</small> 智。
108	心	開	四	性		平	上1011	平 <small>(ま)</small> (ヒヤウ)等 <small>(ま)</small> (トウ)性 <small>(ま)</small> 智。
109	審	開	三	馨	シヤウ	上濁	上1408	稱 <small>(ま)</small> (シヨウ)性 <small>(ま)</small> ノ
110	禪	開	三	成	シヤウ	去	上1149	妙 <small>(ま)</small> (メイ)音 <small>(ま)</small> (ヨム)聲 <small>(ま)</small> 上濁(シヤウ)ヲ
111	禪	開	三	成	シヤウ		上1008	不空 <small>(クウ)</small> 成 <small>(シヤウ)</small> 就 <small>(シユ)</small> 佛ナリ。
112	禪	開	三	成	シヤウ		上1011	成 <small>(ま)</small> (シヤウ)所 <small>(ま)</small> (シヨ)作 <small>(ま)</small> (サ)智ナリ。
113	禪	開	三	成	シヤウ		上1123	成 <small>(シヤウ)</small> セラレタリ。
114	禪	開	三	成	シヤウ		上1156	成 <small>(シヤウ)</small> スト。
115	明	開	四	冥	ミヤウ		上1360	冥 <small>(ミヤウ)</small> 益 <small>(ヤク)</small> ヲモ
116	明	開	四	冥	メイ		別1544	冥 <small>(ま)</small> (メイ)一途 <small>(ま)</small> (ト)ニシテ。
117	明	開	四	冥	メイ		別1626	冥 <small>(ま)</small> (メイ)一途 <small>(ま)</small> (ト)ニ
118	端	開	四	頂	チャウ	上濁	上1058	一切如來眞 <small>(ま)</small> (シン)實 <small>(ま)</small> (シツ)本 <small>(ま)</small> 願 <small>(ま)</small> 上濁(クワン)頂 <small>(ま)</small> 上濁(チャウ)光眞言加持土沙 <small>(ま)</small> ノ。

119	透	四	聽	チヤウ	平	上083	御(コ)聽(平)(チヤウ)聞(去)(モン)
120	清	四	青	シヤウ	上	上041	青(上)(シヤウ)丘(平) (キウ)大師(シ)ト。
121	清	四	青	シヤウ	上	上129	青(シヤウ)丘(キウ)大師ノ。
122	清	四	青	シヤウ	上	上134	青(上)丘(平) 大師ノ。

曾撰(除人声韻)

123	匣	一	弘	クウ		上366	弘(クウ)濟(サイ)ノ
124	端	一	登	トウ		上369	登(トウ)地(チ)以上二
125	端	一	等	トウ	平濁	上010	平(去) (ヒヤウ)等(平) (トウ)性(平) 智。
126	端	一	等	トウ	平	上037	無(上) (ム)間(平) (ケン)地(チ)獄(コク)等(トウ)ニ。
127	端	一	等	トウ	平	上157	十地(チ)等(平) (トウ)覺(入) (カク)ノ
128	泥	一	能	ノウ		上363	功(クウ)能(ノウ)モ
129	泥	一	能	ノウ		上367	能(ノウ)詮(セン)ニ
130	心	一	僧	ソウ		上185	下(ケ)僧(ソウ)。
131	心	一	僧	ソウ		上194	愚(ク)僧(ソウ)。
132	心	一	增	ソウ	去濁	上381	業(コウ)增(去) (ソウ)上(平) (カニ)ヨリテ。
133	心	一	增	ソウ	去濁	上398	增(去) (ソウ)上(平) (シヤウ)果(平) (クワ)ナルカユヘニ。

134	影	三	應	ヨウ	上	上377	相(去) (サウ)應(上) (ヨウ)物(入) (モツ)ト
135	穿	三	稱	シヨウ	去	上147	稱(去) (シヨウ)讚(平) (サン)如來ト。
136	穿	三	稱	シヨウ	去	上152	礼(ライ)敬(キヤウ)・稱(シヨウ)讚(サン)等。

蒸

登

光明真言工沙勤信記の字音について

137	穿	開	三	稱	去	上508	稱 <small>(去)</small> (シヨウ)性 <small>(平)</small>
138	乘	開	三	乘	去濁	上159	大 <small>(平濁)</small> (タイ)乘 <small>(去濁)</small> (シヨウ)
139	審	開	三	勝	平	上232	勝 <small>(平)</small> (シヨウ)軍 <small>(去濁)</small> (ケン)王 <small>(平)</small>
140	審	開	三	勝	平	上238	勝 <small>(平)</small> (シヨウ)利 <small>(平)</small> (リ)ヨ
141	審	開	三	證	平	上026	所 <small>(平)</small> (シヨ)證 <small>(平)</small> (シヨウ)
142	審	開	三	證	平	上396	如來所證(シヨウ)

臻撰(除入声韻)

痕		143	影	開	一	恩	上546	厚 <small>(平)</small> (コウ)恩 <small>(平聲)</small> (オン)ヨ
		144	見	開	一	根	上037	善 <small>(平)</small> (セン)根 <small>(去濁)</small> (コン)ヨモ

眞		145	影	開	四	因	上186	因 <small>(去)</small> (イン)陀 <small>(上濁)</small> (タ)羅 <small>(上)</small> (ラ)網 <small>(上)</small> (マウ)境 <small>(キヤウ)</small> 界 <small>(カイ)</small> 門 <small>(ン)</small>
		146	影	開	四	因	上188	因 <small>(去)</small> (イン)位 <small>(キ)</small> リ
		147	疑	開	三	銀	上122	銀 <small>(上濁)</small> (オン)。
		148	澄	開	三	塵	上142	一 <small>(去)</small> 微 <small>(上)</small> (シ)塵 <small>(上濁)</small> (チン)。
		149	澄	開	三	塵	上172	六塵 <small>(去濁)</small> (チン)ヲ
		150	澄	開	三	塵	上174	色 <small>(シキ)</small> 塵 <small>(去濁)</small> (チン)ナリ。
		151	日	開	三	人	上104	他 <small>(上)</small> (タ)人 <small>(上)</small> (ニン)ノ
		152	日	開	三	人	上222	罪 <small>(サイ)</small> 人 <small>(上)</small> (ニン)ト
		153	日	開	三	仁	上093	仁 <small>(去)</small> (ニン)王 <small>(上)</small> (ワウ)會 <small>(エ)</small> ノ
		154	清	開	四	親	上359	親 <small>(平聲)</small> (シン)疏 <small>(上)</small> (ソ)

魂	155	從	四	盡	平	濁	上149	無(ム)盡(平濁)(シソ)
	156	從	四	盡	平	濁	上150	□無盡(平濁)
	157	從	四	盡	平	濁	上153	無盡(シソ)重(チウ)ニ。
	158	照	三	眞	去		上058	一切如來眞(去)(シソ)實(入聲)(シツ)本(平聲)(ホン)願(平濁)(クワン)大灌(去)
	159	乘	三	神	去		上079	(クワン)頂(上濁)(チヤウ)光眞言加持土沙ノ。
	160	乘	三	神	去		上088	龍(リウ)神(シソ)ノ
	161	乘	三	神	去		上158	龍(リウ)神(シソ)ノ
	162	心	四	新	去		上072	神(去濁)(シソ)反(平濁)(クソ)ニ
	163	心	四	信	平		上083	新(去)(シソ)羅(上)(シ)國(コク)ノ
	164	心	四	信	平		上155	信(シソ)仰(平濁)(カウ)シテ。
	165	心	四	信	平		上218	深(去濁)(シム)信(平)(シソ)解(平濁)(ケ)力(入)(リキ)トニ・ヨリテ。
	166	審	三	身			上190	信(シソ)仰(カウ)受(シユ)持(チ)シテ。
	167	審	三	身			上230	身(シソ)心(シム)
	168	審	三	身			上384	變(平)(クソ)化(平濁)(カエ)身(シソ)ノ。
	169	審	三	身			上385	法(ホウ)門(モン)身(シソ)ト
	170	幫	一	本	平	輕	上025	衆(シユ)生(シヤウ)身(シソ)ニ
	171	幫	一	本	平	輕	上058	本(平聲)(ホン)不(上)(フ)生(上)(シヤウ)ニシテ。
	172	幫	一	本			上206	一切如來眞(去)(シソ)實(入聲)(シツ)本(平聲)(ホン)願(平濁)(クワン)大灌(去)
	173	幫	一	本			上384	(クワン)頂(上濁)(チヤウ)光眞言加持土沙ノ。
	174	明	一	門			上267	本(ホン)ヲ
	175	影	一	門				本(ホン)心(シム)ハ
		合		温				法(ホウ)門(モン)身(シソ)ト
		合		温				温(平)(ウソ)室(入聲)(シツ)ト

光明真言工沙勤信記の字音について

176	定合	一	鈍	上194	擬 <sub>(上)</sub> (チ鈍 <sub>(平通)</sub> (ト))
177	來合	一	論	上194	論(ロン)セム・
178	禪合	三	順	上401	順(シユン)理(リ)
179	禪合	三	順	上647	順 <sub>(平通)</sub> (シユン)行 <sub>(平)</sub> スルコト
180	禪合	三	順	上648	孝 <sub>(平)</sub> (ケウ)順 <sub>(平通)</sub> (シユン)
181	奉合	三	分	上375	妄(マウ)情(シヤウ)分(フン)別(ハツ)
182	奉合	三	分	上660	分(フン)散(サン)シ・
183	奉合	三	分	上181	隨(スイ)分(フン)
184	文合	三	文	上333	文(モン)字 <sub>(平通)</sub> (シ)下・
185	聞合	三	聞	上383	御(ゴ)聽 <sub>(平)</sub> (チヤウ)聞 <sub>(平)</sub> (モン)
186	聞合	三	聞	上121	見 <sub>(平)</sub> (ケン)聞 <sub>(平)</sub> (モン)
187	問合	三	問	上243	問(モン)答(タウ)シテ
188	問合	三	問	上250	問(モン)シテ・
189	曉合	三	薰	上402	薰(ケン)シテ・
190	見合	三	軍	上232	勝 <sub>(平)</sub> (シヨウ)軍 <sub>(平通)</sub> (ケン)王 <sub>(平)</sub> ・
191	群合	三	群	上232	群 <sub>(平通)</sub> (ケン)賊 <sub>(平)</sub> (ソク)ヲ

山撰(除人声韻)

山



192	見開	二	間	ケン	平	上037	無 <sup>上</sup> (ム)間 <sup>平</sup> (ケン)地 <sup>子</sup> (チ)獄 <sup>コク</sup> 等 <sup>トウ</sup> ニ・
193	見開	二	間	ケン	去	上147	間 <sup>去</sup> (カン)斷 <sup>平濁</sup> (タン)
194	見開	二	間	ケン	去	上152	間 <sup>去</sup> (カン)斷 <sup>平濁</sup> (タン)
195	疑開	二	眼	ケン	上濁	上181	眼 <sup>上濁</sup> (カン)前 <sup>平濁</sup> (セン)ノ
196	疑開	二	眼	ケン	平濁	上210	得 <sup>上濁</sup> (トク)眼 <sup>平濁</sup> (ケン)林 <sup>リム</sup> ト
197	疑開	二	眼	ケン	平濁	上212	法眼 <sup>ケン</sup> (ケン)開 <sup>カイ</sup> (カイ)明 <sup>ミヤウ</sup> ノ
198	山開	二	山	サン		上211	須 <sup>シユ</sup> (シユ)弥 <sup>ミ</sup> (ミ)山 <sup>セン</sup> (セン)ト・
199	山開	二	山	サン		上213	山 <sup>サン</sup> (サン)海 <sup>カイ</sup> (カイ)ヲ
仙							
200	幫合	三	變	ハン	平	上230	變 <sup>平</sup> (ハン)化 <sup>平濁</sup> (クエ)身 <sup>シン</sup> ・
201	幫合	三	變	ハン		上359	變 <sup>ハン</sup> (ハン)シテ・
202	幫合	三	變	ハン		上381	變 <sup>ハン</sup> (ハン)現スル
203	並開	四	弁	ハン		上019	方 <sup>去</sup> (ハウ)便 <sup>平濁</sup> (ハン)シテ・
204	並開	四	弁	ハン		上133	方 <sup>去</sup> (ハウ)便 <sup>平濁</sup> (ハン)ニヨリテ・
205	並合	三	弁	ハン		上155	方 <sup>去</sup> (ハウ)便 <sup>平濁</sup> (ハン)才 <sup>去濁</sup> (サイ)海 <sup>カイ</sup> ヲ
206	明開	四	面	メン	平濁	上123	方 <sup>去</sup> (ハウ)面 <sup>平</sup> (メン)ニ・
207	明開	四	面	メン		上155	頭 <sup>ツ</sup> (ツ)面 <sup>メン</sup> (メン)接 <sup>セツ</sup> (セツ)足 <sup>ソク</sup> (ソク)歸命礼ト
208	影開	三	焉	エン	平輕圈	別270	終 <sup>平圈</sup> (シウ)一焉 <sup>平濁</sup> (エン)ヲ
209	喻合	四	緣	エン		上044	善 <sup>セン</sup> (セン)緣 <sup>エン</sup> (エン)ニ
210	喻合	四	緣	エン	去	上065	緣 <sup>去</sup> (エン)起 <sup>平濁</sup> (キ)難 <sup>去</sup> (ナン)思 <sup>上濁</sup> (シン)ノ
211	喻合	四	緣	エン		上135	緣 <sup>エン</sup> (エン)起 <sup>平濁</sup> (キ)難 <sup>去</sup> (ナン)思 <sup>上濁</sup> (シン)ノ
212	喻合	四	緣	エン		上139	十玄 <sup>クエン</sup> (クエン)緣 <sup>エン</sup> (エン)起 <sup>キ</sup> ト
213	喻合	四	緣	エン		上166	十玄 <sup>クエン</sup> (クエン)緣 <sup>エン</sup> (エン)起 <sup>キ</sup> ト

光明真言工沙勒信記の字音について

214	縁	四	エン	上202	衆(シヨ)縁(エン)・
215	縁	四	エン	上222	罪(サイ)縁(エン)ニ
216	圓	三	エン	上010	大圓(オ) (エン)鏡(平) (キヤウ)智・
217	圓	三	エン	上012	五智圓(オ) (エン)滿(平) (マン)ノ
218	圓	三	エン	上139	六相(サウ)圓(オ) (エン)融(上) (ユウ)・
219	眷	三	クエン	上144	諸佛・眷(平) (クエン)屬(入) (ソク)
220	鍵	三	ケン	上337	幽(平)鍵(平) (ケン)ヲ
221	展	三	チン	上216	展(平) (チン)轉(平) (テン)同(オ) (トウ)説(入) (セツ)スルハ・
222	轉	三	テン	上216	展(平) (チン)轉(平) (テン)同(オ) (トウ)説(入) (セツ)スルハ・
223	轉	三	テン	上231	四相流(上) (ル)轉(平) (テン)ノ
224	傳	三	テン	上180	經論傳(チン)記(キ)ノ
225	連	三	レン	上658	連(リン)ニ
226	煎	四	セン	上388	煎(セン)シカタメテ・
227	煎	四	セン	上392	煎(セン)シカタメタルカコトシ・
228	詮	四	セン	上173	所(平) (シヨ)詮(オ) (セン)ノ
229	詮	四	セン	上367	能(ノウ)詮(セン)ニ
230	禪	三	セン	上241	坐(平) (サ)禪(セン)處(シヨ)トセリ・
231	善	三	セン	上028	万(マン)善(セン)ヲ
232	善	三	セン	上037	善(平) (セン)根(オ) (コン)ヲモ・
233	善	三	セン	上044	善(セン)縁(エン)ニ
元					
234	非合	三	ヘン	上152	一二反(ケン)ノ
235	非合	三	ヘン	上158	神(オ) (シン)反(平) (ケン)ニモ
236	非合	三	ヘン	上226	反(ケン)現(ケン)ニチユン

237	敷	合	三	翻	ホ	去	上221	翻 <small>ホ</small> スル
238	敷	合	三	翻	ホ	去	上222	翻 <small>ホ</small> スル。
239	敷	合	三	翻	ホ	去	上654	翻 <small>ホ</small> スル <small>ハ</small> 譯 <small>ハ</small> 入 <small>ハ</small> 難 <small>ハ</small> ヤクシテ。
240	微	合	三	万	マ	去	上028	万 <small>マ</small> 善 <small>セ</small> ン <small>ヲ</small>
241	疑	合	三	元	ク	去	上085	元 <small>エ</small> 入 <small>ハ</small> 難 <small>ハ</small> 曉 <small>ハ</small> ケウ <small>ト</small>
242	疑	合	三	元	ク	去	上058	一切如來 <small>エ</small> 實 <small>ハ</small> シ <small>ハ</small> 實 <small>ハ</small> 入 <small>ハ</small> 難 <small>ハ</small> シツ <small>ハ</small> 本 <small>ハ</small> 平 <small>ハ</small> 願 <small>ハ</small> 平 <small>ハ</small> 大 <small>ハ</small> 灌 <small>ハ</small>
243	疑	合	三	願	ク	濁	上141	普 <small>フ</small> 賢 <small>ケン</small> 行 <small>ケン</small> 願 <small>ケン</small> 力 <small>ケン</small> 經 <small>ニ</small> 。
244	疑	合	三	願	ク	濁	上155	行 <small>ケン</small> 願 <small>ケン</small> 力 <small>ケン</small> 入 <small>ハ</small> 難 <small>ハ</small> リ <small>キ</small> ト。
寒								
245	影	開	一	安	ア	去	上042	遊 <small>ユ</small> 心 <small>ユ</small> 安 <small>マ</small> ア <small>ン</small> 樂 <small>ハ</small> 難 <small>ハ</small> 道 <small>ハ</small> 平 <small>ハ</small> タウ <small>ト</small> 。
246	泥	開	一	難	ナ	去	上065	緣 <small>エ</small> 起 <small>キ</small> 平 <small>ハ</small> 難 <small>ハ</small> ナ <small>ン</small> 思 <small>ハ</small> 上 <small>ハ</small> シ <small>ハ</small> 。
247	泥	開	一	難	ナ	去	上135	緣 <small>エ</small> 起 <small>キ</small> 難 <small>ナ</small> 思 <small>シ</small> 。
248	精	開	一	散	サ	平	上660	分 <small>フ</small> 散 <small>サ</small> シ。
249	精	開	一	讚	サ	平	上082	講 <small>コ</small> カウ <small>カウ</small> 讚 <small>サ</small> セシメテ。
250	精	開	一	讚	サ	平	上147	稱 <small>セ</small> シヨウ <small>シヨウ</small> 讚 <small>サ</small> 如來 <small>ト</small> 。
251	精	開	一	讚	サ	平	上152	礼 <small>ライ</small> 敬 <small>ケン</small> キヤウ <small>キヤウ</small> 稱 <small>セ</small> シヨウ <small>シヨウ</small> 讚 <small>サ</small> 等。
先								
252	幫	開	四	遍	ハ	平	上153	遍 <small>ハ</small> シ。
253	幫	開	四	遍	ハ	平	上165	周 <small>シ</small> ユ <small>ユ</small> 遍 <small>ハ</small> 無 <small>ム</small> 窮 <small>ク</small> ウ <small>ウ</small> 。
254	幫	開	四	遍	ハ	平	上661	周 <small>シ</small> ユ <small>ユ</small> 遍 <small>ハ</small> シテ。
255	幫	開	四	遍	ハ	平	上120	無 <small>ム</small> 量 <small>リ</small> ヤウ <small>ヤウ</small> 無 <small>ム</small> 邊 <small>ハ</small> ナル <small>ハ</small> キナリ。

256	幫	合	四	邊	上371	邊 <small>(去)</small> (ケン)際 <small>(平)</small> (サイ)ヲ
257	曉	開	四	顯	上136	大小顯 <small>(去)</small> (ケン)密 <small>(ミツ)</small> ・
258	匣	開	四	賢	上141	普 <small>(フ)</small> 賢 <small>(ケン)</small> 行願 <small>(クワン)</small> 經 <small>ニ</small> ・
259	匣	開	四	賢	上154	普 <small>(フ)</small> 賢 <small>(ケン)</small> 苦 <small>(ホ)</small> 薩 <small>(サツ)</small> ・
260	匣	合	四	玄	上139	十玄 <small>(クエン)</small> 緣 <small>(エン)</small> 起 <small>(キ)</small> ト
261	匣	合	四	玄	上166	十玄 <small>(クエン)</small> 緣 <small>(エン)</small> 起 <small>(キ)</small> ノ
262	匣	開	四	見	上120	見 <small>(ケン)</small> 聞 <small>(マ)</small> (モン)ノ
263	見	開	四	現	上163	十方諸佛影 <small>(平)</small> (ヤウ)現 <small>(平)</small> (ケン)中 <small>・</small>
264	見	開	四	現	上226	反 <small>(ハン)</small> 現 <small>(ケン)</small> ニテユ
265	見	開	四	現	上360	現 <small>(ケン)</small> 益 <small>・</small>
266	見	合	四	羅	上052	不 <small>(フ)</small> 空 <small>(ク)</small> 七 <small>(ク)</small> 羅 <small>(平)</small> (クエン)索 <small>(入)</small> シヤク)經 <small>ヲ</small>
267	泥	開	四	年	上183	先 <small>(平)</small> (セン)年 <small>(平)</small> (ネン)・
268	來	開	四	蓮	上648	華 <small>(上)</small> (クエ)蓮 <small>(上)</small> (レン)ニ
269	來	開	四	練	上657	三時練 <small>(去)</small> (レン)行 <small>(平)</small> (キヤウ)ノツイテニ・
270	從	開	四	前	上181	眼 <small>(上)</small> (カン)前 <small>(平)</small> (セン)ノ
271	心	開	四	先	上183	先 <small>(平)</small> (セン)年 <small>(平)</small> (ネン)・
272	滂	合	一	判	上130	判 <small>(平)</small> (ハン)シタマハルコト・
273	明	合	一	滿	上012	五智圓 <small>(去)</small> (エン)滿 <small>(平)</small> (マン)ノ
274	曉	合	一	歡	上237	歡 <small>(去)</small> (クワン)言 <small>(平)</small> (キ)愛 <small>(平)</small> (アイ)敬 <small>(平)</small> (キヤウ)シテ・
275	見	合	一	觀	上011	妙 <small>(平)</small> (メウ)觀 <small>(去)</small> (クワン)察 <small>(入)</small> 智 <small>(サツ)智</small> ・
276	見	合	一	觀	上374	受 <small>(シユ)</small> 持 <small>(チ)</small> 觀 <small>(クワン)</small> 念 <small>(ネム)</small> ノトコロニ・
277	見	合	一	灌	上058	一切如來眞 <small>(去)</small> (シン)實 <small>(入)</small> 願 <small>(シツ)本(平)願(ホ)</small> 願 <small>(平)</small> (クワン)大灌 <small>(去)</small>

278	疑合	一	翫	クワン	平濁	別64	賞 <small>(平濁)</small> (シヤウ)ー翫 <small>(平濁)</small> (クワン)スハシ。
279	端合	一	端	タン	上	上43	毛 <small>(去)</small> (モウ)端 <small>(上)</small> (タン)利 <small>(入聲)</small> (セツ)海 <small>(上)</small> (カイ)ノ
280	端合	一	斷	タン	平濁	上47	間 <small>(去)</small> (ケン)斷 <small>(平濁)</small> (タン)
281	端合	一	斷	タン		上52	間 <small>(去)</small> (ケン)斷 <small>(タン)</small>

深撰(除人声韻)

282	影開	三	音	ヨム	去	上49	妙 <small>(平)</small> (メウ)音 <small>(去)</small> (ヨム)聲 <small>(上濁)</small> (シヤウ)ヲ
283	影開	三	飲	ヨム		上77	飲 <small>(ヨム)</small> 食 <small>(シキ)</small> 。
284	影開	三	飲	ヨム		上89	飲 <small>(ヨム)</small> 食 <small>(シキ)</small> ノ・コトク
285	見開	三	金	コム	去	上81	金 <small>(コム)</small> 剛 <small>(カウ)</small> 三味 <small>(マイ)</small> 經 <small>(ト)</small> 。
286	見開	三	金	コム	去	上22	金 <small>(去)</small> (コム)。
287	見開	三	金	コム	上濁	上24	黄 <small>(去)</small> (ワウ)金 <small>(上濁)</small> (コム)ナレハ。
288	群開	三	黔	キム	平	上80	黔 <small>(平)</small> (キム)海 <small>(カイ)</small> ト
289	來開	三	林	リム		上20	得 <small>(トク)</small> 眼 <small>(平濁)</small> (ケン)林 <small>(リム)</small> ト
290	乘開	三	甚	シム		上80	甚 <small>(シム)</small> 深 <small>(シム)</small> ナリ。
291	心開	四	心	シム		上90	身 <small>(シン)</small> 心 <small>(シム)</small>
292	心開	四	心	シム	去	上200	醉 <small>(平)</small> (スイ)心 <small>(去)</small> (シム)ノ
293	心開	四	心	シム	去	上203	醉 <small>(平)</small> (スイ)心 <small>(去)</small> (シム)ヲ
294	心開	四	心	シム	去濁	上206	本 <small>(ホン)</small> 心 <small>(シム)</small> ハ
295	審開	三	深	シム		上15	深 <small>(去濁)</small> (シム)信 <small>(平)</small> (シン)解 <small>(平濁)</small> (ケ)力 <small>(去)</small> (リキ)トニ・ヨリテ。
296	審開	三	深	シム		上380	甚 <small>(シム)</small> 深 <small>(シム)</small> ナリ。
297	審開	三	審	シム		上224	御不審 <small>(シム)</small>

光明真言工沙勸信記の字音について

咸撰(除人声韻)

鹽		298	照開	三	占	セム	平	上074	占 <sup>(平)</sup> (セム)師(シ)ニ
榛		299	泥開	四	念	ネム	平	上145	念(ネム)ニ(ク)ニ
		300	泥開	四	念	ネム		上367	念 <sup>(平)</sup> (ネム)惠 <sup>(平)</sup> (エ)ノ
		301	泥開	四	念	ネム		上374	受(シユ)持(チ)觀(クワン)念(ネム)ノトコロニ・
談		302	定開	一	談	タム	上濁	上188	談 <sup>上濁</sup> (タム)セリ・
		303	定開	一	談	タム		上408	談(タム)ナルカユハニ・
嚴		304	疑開	三	嚴	コム		上071	華(クエ)嚴(コム)宗ノ
凡		305	奉合	三	凡	ホム		上188	凡(ホム)夫(フ)モ
		306	奉合	三	凡	ホン		上231	凡(ホン)夫(フ)ナリ・

通撰(入声韻)

屋	307 明開	一	木	モク	上023 草(サウ)木(モク)ノ
	308 曉開	三	畜	チク	上057 畜(チク)生ノ
	309 定開	一	讀	トク	上141 受(シユ)持(チ)讀(トク)誦(シユ)スル・
	310 初開	二	悶	シユク	上008 阿(ア)悶(シユク)・

燭	311 疑開合	三	獄	コク	上037 無(上)間(ケン)地(チ)獄(コク)等(トウ)ニ・
	312 疑開合	三	獄	コク	上057 地(チ)獄(コク)・
	313 疑開合	三	獄	コク	無間地(チ)獄(コク)ニ
	314 精開合	四	足	ソク	上033 具(ク)足(ソク)シ・
	315 精開合	四	足	ソク	上154 頭(ツ)面(メン)接(セツ)足(ソク)歸命礼
	316 從開合	四	續	ソク	上155 相(マ)續(入聲)續(ソク)シテ・
	317 心開合	四	粟	ソク	別153 稻(タウ)粟(ソク)麻(マ)麥(ミヤク)ノ・
	318 禪開合	三	屬	ソク	上154 諸佛・眷(ケ)屬(入聲)屬(ソク)

江撰(入声韻)

覺	319 見開合	二	覺	カク	上157 十地(チ)等(平聲)トウ覺(入聲)カクノ
---	---------	---	---	----	---------------------------

光明真言工沙勸信記の字音について

右撰(入声韻)

鐸	320 影開	上053	十惡(アク)五逆(入聲) (キヤク)等ノ。
	321 影開	上054	惡(アク)道(タウ)ニ
	322 來開	上041	極(コク)樂(ラク)世(セ)界(カイ)ニ。
	323 來開	上042	遊(ユ)心安(ま) (アン)樂(入聲) (ラク)道(平聲) (タウ)ト。
	324 來開	上176	法樂(ラク)ヲ
	325 來開	上379	与(ヨ)樂(ラク)拔(ハツ)苦(ク)ノ。

藥	326* 奉開	上019	入(シユ)囀(ハ)囉(ラ)ト
	327 影開	上367	約(ヤク)スレハ。
	328 影開	上368	約(ヤク)スレハ。
	329 喻開	上053	方(ま) (ホウ)藥(入聲) (ヤク)

梗撰(入声韻)

陌	330 疑開	上033	十惡(アク)五逆(入聲) (キヤク)等ノ。
	331 山開	上032	不(ま) (フ)空(ま) (クウ)羅(平) (クエン)索(入聲) (シヤク)經(ヨ)
昔	二		
	三		
	逆		
	キヤク		
	シヤク		
	入輕濁		
	入濁		



332	影開	四	益	ヤク	上388	冥(ミヤウ)益(ヤク)ヲモ
333	諭開	四	譯	ヤク	上354	翻(マ) (ホン)譯(入聲) (ヤク)シテ・
334	審開	三	釋	シヤク	上198	釋(シヤク)シタマヘルハ・
麥						
335	明開	二	麥	ミヤク	別33	稻(タウ)粟(ソク)麻(マ)麥(ミヤク)ノ・

會撰(入声韻)

德	明開	一	墨	モク	上372	紙(上聲) (シ)墨(入聲) (モク)ノ
	見合	一	國	コク	上061	極樂國(コク)土(平聲) (ト)ニ
	見合	一	國	コク	上072	新(去) (シン)羅(上) (ラ)國(コク)ノ
	得開	一	得	トク	上103	白(平聲) (シ)業(コウ)自(平聲) (シ)得(入) (トク)ハ・
	得開	一	得	トク	上246	得(トク)眼(平聲) (ケン)林(リム)ト
	端開	一	德	トク	上071	行德(トク)
	端開	一	德	トク	上168	佛德(トク)ニ
	端開	一	德	トク	上188	果(クワ)德(トク)ヲ
	端開	一	德	トク	上195	功(クウ)德(トク)・
	定開	一	特	トク	上171	奇(上) (キ)特(入聲) (トク)ノ
職	從開	一	賊	ソク	上232	群(去聲) (ケン)賊(入聲) (ソク)ヲ

光明真言工沙勸信記の字音について

347	群	三	極	コク	上041	極(コク)樂(ラク)世(セ)界(カイ)ニ・
348	徹	三	勅	チヨク	上038	勅 <small>(入聲)</small> (チヨク)使 <small>(平聲)</small> (シ)
349	來	三	力	リキ	上051	行(キヤウ)願(クワン)力 <small>(入聲)</small> (リキ)ト・
350	來	三	力	リキ	上051	深 <small>(去聲)</small> (シム)信 <small>(平)</small> (シン)解 <small>(平)</small> (ケ)力 <small>(入)</small> (リキ)トニ・ヨリテ・
351	來	三	力	リキ	上051	功(クウ)力(リキ)ニヨリテ・
352	來	三	力	リキ	上388	衆生業(コウ)力(リキ)ノ
353	乘	三	食	シキ	上177	飲(ヨム)食(シキ)・
354	乘	三	食	シキ	上359	飲(ヨム)食(シキ)ノ・コトク
355	審	三	式	シキ	上162	式(シキ)ヲ
356	審	三	識	シキ	上197	唯(ユイ)識(シキ)章(シヤウ)ニ・
357	山	二	色	シキ	上125	金色(シキ)ニ
358	山	二	色	シキ	上174	色(シキ)塵 <small>(去聲)</small> (チン)ナリ・

臻撰(入声韻)

359	明	三	密	ミツ	上003	大秘 <small>(平聲)</small> (ヒ)密 <small>(入)</small> (ミツ)法ナリ・
360	明	三	密	ミツ	上013	密(ミツ)語 <small>(平)</small> (ゴ)ナリ・
361	日	三	密	ミツ	上136	大小顯(ケン)密(ミツ)・
362	日	三	日	ニツ	上056	日(ニツ)中(チュウ)ノ
363	乘	三	實	シツ	上008	一切如來眞 <small>(去)</small> (マ)實 <small>(入聲)</small> (シツ)本 <small>(平)</small> (ホン)願 <small>(平)</small> (クワン)大灌 <small>(去)</small>
364	乘	三	實	シツ	上173	實 <small>(入聲)</small> (シツ)相 <small>(平)</small> (サウ)ヲ・
365	乘	三	實	シツ	上174	實 <small>(入聲)</small> (シツ)相 <small>(平)</small> (サウ)ヲ・

質

366	乘	開	三	實	入	上251	假(平)ケ)實(入)實(シ)チ)ノ
367	乘	開	三	實	入	上368	實(シ)チ)相(サウ)ナリ・
368	心	開	四	悉	入	上378	悉(入)入(シ)チ)地(平)地(チ)ヲ
369	審	開	三	室	入	上267	温(平)ウ)ン)室(入)室(シ)ツ)ト
370	並	合	一	勃		上015	摩(マ)訶(カ)勃(ホ)陀(タ)羅(ラ)ト
371	見	合	一	骨		別282	骨(コツ)一法(ハウ)ヲ・
372	穿	合	三	出	入	上113	出(入)シ)ユ)ツ)離(上)リ)得脱(入)得(タ)ツ)・
373	穿	合	三	出		上228	出(シ)ユ)ツ)世(セ)ノ
374	乘	合	三	術		上636	秘(ヒ)術(シ)ユ)ツ)トニ
375	乘	合	三	術		上651	秘(ヒ)術(シ)ユ)ツ)ヲ
376	乘	合	三	術	入	上063	述(入)入(シ)ユ)ツ)懷(平)ク)ワイ)スル
377	乘	合	三	述	入	上632	述(シ)ユ)ツ)懷(ク)ワイ)シテ
378	奉	合	三	佛		上653	佛(フ)ツ)子(平)シ)ナリ・
379	微	合	三	物		上263	三寶(ホウ)物(モツ)ヲ
380	微	合	三	物		上377	相(平)相(サウ)應(上)應(ヨウ)物(入)物(モツ)ト
381	微	合	三	物	入	別343	美(上)美(ヒ)物(入)物(フ)ツ)ト

光明真言工沙勤信記の字音について

山撰(入声韻)

鏘		碎		曷		末	
382	初開	384	並開	392	溪開	394*	幫合
383	二利	385	三別	393	一渴	一	一鉢
	セツ	386	四滅		カツ	鉢	ハン
	入輕	387	三舌		入	上017	上017
	上018	388	四開		入濁	上017	鉢(ハン)頭(ト)摩(マ)ト
	上019	389	三雪		入	上017	
	佛刹(セツ)	390	三說		入	上017	
	毛(モウ)端(ト)刹(入聲)海(上)カイ)	391	三說		入	上017	
			妄(マウ)情(シヤウ)分(フン)別(ハツ)		飢(モ)渴(カツ)		
			無(ム)二無別(ハチ)ナリ。		普(フ)賢(ケン)菩(ホ)薩(カツ)		
			滅(メツ)罪(サイ)生善ノ				
			長(チヤウ)舌(入聲)セツ)				
			雪(セツ)山)				
			展(チン)轉(平聲)同(主聲)トウ)説(入)セツ)スルハ。				
			説(セツ)法ヲ				

395	透合	一	脱	上 <sub>23</sub>	出入(シユツ)離 <sub>(上)</sub> (リ)得脱 <sub>(入)</sub> (タツ)・
396	透合	一	脱	上 <sub>22</sub>	脱 <sub>(入)</sub> (タツ)期 <sub>(平)</sub> (コ)ヲ

點

397	並合	二	抜	上 <sub>29</sub>	与(ヨ)樂(ラク)抜(ハツ)苦(ク)ノ・
398	穿開	二	察	上 <sub>21</sub>	妙 <sub>(平)</sub> (メウ)觀 <sub>(ま)</sub> (クワン)察 <sub>(入)</sub> (サツ)智・

深撰(入声韻)

399	來開	三	立	上 <sub>23</sub>	住(チウ)持(チ)假(ケ)立(リウ)ノ
400	來開	三	立	上 <sub>28</sub>	立(リツ)スト
401*	日開	三	入	上 <sub>219</sub>	入(シユ)轉(ハ)囉(ラ)ト

咸撰(入声韻)

402	匣開	一	合	上 <sub>289</sub>	合(カツ)スルコト・
403	匣開	一	合	上 <sub>202</sub>	和(ワ)合(カウ)シテ
404	匣開	一	合	上 <sub>385</sub>	合(カツ)シテ・
405	匣開	一	合	別 <sub>239</sub>	合 <sub>(入聲)</sub> スルコト・
406	透開	一	答	上 <sub>243</sub>	問(モン)答(タウ)シテ
407	透開	一	答	上 <sub>251</sub>	答(タツ)スルニ・
人聲圈					
合					

光明真言工沙勸信記の字音について

葉	408 精開 409 精開 410 審開	四 接 四 接 三 攝	上64 頭(ツ)面(メン)接(セツ)足(ソク)歸命礼ト 上68 接(セウ)シ・ 上73 攝(セウ)ナリ・
業	411 疑開 412 疑開 413 疑開 414 疑開 415 疑開 416 疑開	三 業 三 業 三 業 三 業 三 業 三 業	上046 罪(サイ)業(コウ)ヲノミ・ 上102 自(平)業(シ)業(コウ)自(平)得(入)トクハ・ 上146 業(コウ)・ 上156 業(コウ)ヲ 上381 業(コウ)増(五)業(ソウ)上力(リキ)ニヨリテ・ 上398 衆生業(コウ)力(リキ)ノ
之	417 非合 418 非合 419 非合 420 非合	三 法 三 法 三 法 三 法	ホツ ホウ ホウ ハウ 平入 上10 法(ハ)ホツ(界)平(カ)性(智)・ 上39 作(平)法(平)ホウ(ハ)・ 上384 法(ホウ)門(モン)身(シン)ト 別282 骨(コツ)一法(ハウ)ヲ・
支	止撰		

421	群	開合	三	四	弥	ミ	上	上121	須(シユ)弥(ミ)山(セン)ト・
422	開合	三	三	奇	キ	上	上121	奇(上)キ)特(入濁)トク)	
423	開合	三	三	儀	キ	平	上376	儀(平濁)キ)軌(上濁)ク)本經二・	
424	開合	三	三	義	キ	平濁	上333	字(シ)義(平濁)キ)ヲ	
425	開合	三	三	義	キ	平濁	上334	句(平)ク)義(平濁)ヲ	
426	開合	三	三	義	キ	平濁	上384	義(キ)理(リ)・	
427	開合	三	三	義	キ	濁	上137	義(キ)ヲ	
428	開合	三	三	議	キ	濁	上399	行徳(平)思(上)シ)議(上濁)キ)ノ・	
429	開合	三	三	議	キ	濁	上155	不(平)思(シ)議(キ)ノ	
430	開合	三	三	議	キ	濁	上170	不(フ)可(カ)思(シ)議(キ)	
431	開合	三	三	智	チ	平	上009	五智(チ)ナリ・	
432	開合	三	三	智	チ	平	上085	大智(平)チ)者(平)シヤ)	
433	開合	三	三	智	チ	平	上094	智(チ)行(キヤウ)ヲ	
434	開合	三	三	璃	リ	上	上122	吠(平濁)ハイ)瑠(ル)璃(リ)・	
435	開合	三	三	離	リ	上	上113	出(ハ)シユツ)離(上)リ)得脱(入濁)タツ)・	
436	開合	三	三	紙	シ	上	上372	紙(上濁)シ)墨(入濁)モク)ノ	
437	合	四	三	隨	スイ	上	上181	隨(スイ)分(フ)ン)ノ	
脂									
438	開	三	三	悲	ヒ	平	上239	慈(シ)悲(ヒ)ノ	
439	開	三	三	秘	ヒ	平	上003	大秘(平)ヒ)密(ハ)ミツ)法ナリ・	
440	開	三	三	秘	ヒ	平	上636	秘(ヒ)術(シユツ)トニ	
441	開	三	三	秘	ヒ	平	上651	秘(ヒ)術(シユツ)ヲ	
442	開	三	三	美	ミ	上	別343	美(上濁)ヒ)物(入濁)フツ)ト	

光明真言工沙勤信記の字音について

443	諭	合	四	唯	ユイ		上186	唯(ユイ)讖(シキ)章(シヤウ)ニ・
444	于	合	三	位	キ		上188	因(イン)位(キ)ニ
445	見	開	三	飢	ケ		上178	飢(キ)渴(カツ)ノ
446	見	合	三	軌	クキ		上376	儀(キ)軌(クキ)本經ニ・
447	見	開	四	地	チ	上園	上023	大地(チ)ノ
448	定	開	四	地	チ		上037	無(ム)間(ケン)地(チ)獄(コク)等(トウ)ニ・
449	定	開	四	地	チ		上057	地(チ)獄(コク)・
450	定	開	四	地	チ		上157	十地(チ)等(トウ)覺(カク)ノ
451	定	開	四	地	チ		上266	無間地(チ)獄(コク)ニ
452	定	開	四	地	チ		上369	登(トウ)地(チ)以上ニ
453	知	開	三	脰	テイ	平園濁	上378	悉(シ)地(チ)ノ
454	來	開	三	利	リ		上122	頗(ハ)脰(テイ)迦(カ)寶(ホウ)ト・
455	來	開	三	治	チ		上200	治(チ)方(ホウ)ナリ・
456	來	開	三	利	リ		上238	勝(シヨウ)利(リ)ヲ
457	從	開	三	利	リ		上270	切(タウ)利(リ)天ニ
458	從	開	四	自	シ		上064	他(タ)作(サ)自(シ)受(シユ)ノ
459	從	開	四	自	シ		上102	自(シ)業(コウ)自(シ)得(トク)ハ・
460	從	開	四	自	シ		上103	自(シ)業(コウ)自(シ)得(トク)ハ・
461	從	開	四	自	シ		上639	他(タ)作(サ)自(シ)受(シユ)ノ
462	照	開	三	至	シ		上186	至(シ)相(サウ)大師ノ
463	心	合	四	醉	スイ		上200	醉(スイ)心(シム)ノ
464	心	合	四	醉	スイ		上203	醉(スイ)心(シム)ヲ
465	審	合	三	水	スイ		上177	水(スイ)火(クワ)ノ
466	審	合	三	水	スイ		上391	海(カイ)水(スイ)ノコトシ・
467	山	開	二	師	シ		上042	青(シヤウ)丘(キウ)大師(シ)ト・
468	山	開	二	師	シ		上012	祖(ソ)師(シ)ノ



489	山	二	師	シ	上濁	上074	占 <small>(ホ)</small> (セム)師 <small>(シ)</small> 二
470	山	二	師	シ	上濁	上111	眞言師 <small>(上濁)</small> (シ)
之							
471	影	三	醫	イ	上濁	上073	醫 <small>(上)</small> (イ)王
472	曉	三	喜	キ	平濁	上237	歡 <small>(ホ)</small> (クワン)喜 <small>(平濁)</small> (キ)愛 <small>(平)</small> (アイ)敬 <small>(ホ)</small> (キヤウ)シテ・
473	見	三	記	キ	平濁	上180	經論傳 <small>(チン)</small> 記 <small>(キ)</small> ノ
474	溪	三	起	キ	平濁	上065	緣 <small>(ホ)</small> (エン)起 <small>(平濁)</small> (キ)難 <small>(ホ)</small> (ナン)思 <small>(上濁)</small> (シ)ノ
475	溪	三	起	キ	平濁	上135	緣 <small>(エン)</small> 起 <small>(キ)</small> 難 <small>(ナン)</small> 思 <small>(シ)</small> ノ
476	溪	三	起	キ	平濁	上139	十玄 <small>(クマン)</small> 緣 <small>(エン)</small> 起 <small>(キ)</small> ト
477	溪	三	起	キ	平濁	上166	十玄 <small>(クマン)</small> 緣 <small>(エン)</small> 起 <small>(キ)</small> ノ
478	徹	三	期	キ	平濁	上842	脱 <small>(入聲)</small> (タク)期 <small>(平濁)</small> (キ)ヲ
479	徹	三	疑	キ	上濁	上194	疑 <small>(上)</small> (チ)鈍 <small>(平濁)</small> (トン)ノ
480	澄	三	持	チ	上濁	上004	持 <small>(上濁)</small> (チ)念シマシマス・
481	澄	三	持	チ	上濁	上029	加 <small>(力)</small> 持 <small>(チ)</small> スルト・
482	澄	三	持	チ	上濁	上141	受 <small>(シユ)</small> 持 <small>(チ)</small> 讀 <small>(トク)</small> 誦 <small>(シユ)</small> スル・
483	澄	三	持	チ	上濁	上218	信 <small>(シン)</small> 仰 <small>(カウ)</small> 受 <small>(シユ)</small> 持 <small>(チ)</small> シテ・
484	澄	三	持	チ	上濁	上220	護 <small>(平濁)</small> (コ)持 <small>(上濁)</small> (チ)スルハ・
486	澄	三	持	チ	上濁	上373	住 <small>(チウ)</small> 持 <small>(チ)</small> 假 <small>(ケ)</small> 立 <small>(リウ)</small> ノ
487	澄	三	持	チ	上濁	上374	受 <small>(シユ)</small> 持 <small>(チ)</small> 觀 <small>(クワン)</small> 念 <small>(ネム)</small> ノトコロニ・
488	來	三	理	リ	平	上084	義 <small>(キ)</small> 理 <small>(リ)</small> ・
489	來	三	理	リ	平	上167	道 <small>(平濁)</small> 理 <small>(平)</small> (リ)ナリ・
490	來	三	理	リ	平	上173	一理 <small>(リ)</small> トス・
491	來	三	理	リ	平	上196	道 <small>(タウ)</small> 理 <small>(リ)</small> チ
						上401	順 <small>(シユン)</small> 理 <small>(リ)</small> ノ

光明真言工沙勸信記の字音について

492	精開	四	思	上濁	上065	縁 <small>(キ)</small> 起 <small>(平濁)</small> シ <small>(上濁)</small> 難 <small>(キ)</small> ナ <small>(上濁)</small> 思 <small>(上濁)</small> シ <small>(シ)</small> ノ
493	精開	四	思	上濁	上069	行徳 <small>(上)</small> 不 <small>(上)</small> 思 <small>(上)</small> シ <small>(シ)</small> 議 <small>(上濁)</small> キ <small>(キ)</small> ノ
494	精開	四	思	上濁	上135	縁 <small>(キ)</small> 起 <small>(キ)</small> 難 <small>(ナ)</small> 思 <small>(シ)</small> ノ
495	精開	四	思	上濁	上155	不 <small>(シ)</small> 議 <small>(キ)</small> ノ
496	精開	四	思	上濁	上170	不 <small>(フ)</small> 可 <small>(カ)</small> 思 <small>(シ)</small> 議 <small>(キ)</small>
497	精開	四	思	上濁	上653	佛 <small>(フ)</small> 子 <small>(子)</small> ナ <small>(ナ)</small> リ
498	精開	四	思	上濁	上239	慈 <small>(シ)</small> 悲 <small>(ヒ)</small> ノ
499	從開	四	慈	上濁	上033	文 <small>(モ)</small> 字 <small>(字)</small> 下 <small>(下)</small>
500	從開	四	慈	上濁	上033	字 <small>(シ)</small> 義 <small>(キ)</small> ヲ
501	從開	四	慈	上濁	上172	文字 <small>(シ)</small> トス
502	從開	二	字	上濁	上109	大 <small>(大)</small> 事 <small>(事)</small> ナル <small>(シ)</small> ハ <small>(ハ)</small> キ <small>(キ)</small> ニ
503	從開	二	字	上濁	上171	事 <small>(事)</small> シ <small>(シ)</small>
504	從開	二	字	上濁	上178	勅 <small>(勅)</small> 使 <small>(使)</small> シ <small>(シ)</small>

505*	奉合	三	吠	平濁	上013	阿 <small>(ア)</small> 誤 <small>(ホ)</small> 伽 <small>(キヤ)</small> 吠 <small>(ハイ)</small> 嚙 <small>(口)</small> 遮 <small>(シヤ)</small> 囊 <small>(ナウ)</small> ト
506	奉合	三	吠	平濁	上122	吠 <small>(ホ)</small> 瑠 <small>(ル)</small> 璃 <small>(リ)</small>
507	微合	三	微	上濁	上142	一 <small>(一)</small> 微 <small>(ホ)</small> 塵 <small>(チ)</small> ノ
508	于合	三	于	上濁	上144	圍 <small>(ウ)</small> 遠 <small>(エ)</small> ネウ <small>(ネウ)</small> シテ
509	見合	三	見	上濁	上160	歸 <small>(キ)</small> 向 <small>(カウ)</small> シタテマツル
510	見合	三	見	上濁	上057	鐵 <small>(テ)</small> 鬼 <small>(ク)</small> ク <small>(ク)</small> ノ
511	疑合	三	疑	平濁	別252	魏 <small>(ウ)</small> 一 <small>(一)</small> ニタル

蟹撰

512	影	開	一	海	カイ	上078	海(カイ)路(ロ)ヲ
513	影	開	一	海	カイ	上080	黔(キム)海(カイ)ト
514	影	開	一	海	カイ	上083	毛(毛)端(ト)上(タン)刹(入聲)セツン海(上)カイノ
515	影	開	一	海	カイ	上150	弁(平)海(ハシ)才(去)海(カイ)ヲ
516	影	開	一	海	カイ	上243	山(サン)海(カイ)ヲ
517	影	開	一	海	カイ	上371	大虚(コ)空(クウ)海(カイ)ノコトクシテ・
518	影	開	一	海	カイ	上387	海(カイ)潮(テウ)平(ハ)
519	影	開	一	海	カイ	上391	海(カイ)水(スイ)ノコトシ・
520	影	開	一	愛	アイ	上337	歡(ま)クワン喜(平)愛(キ)敬(平)アイ敬(平)キヤウシテ・
521	溪	開	一	開	カイ	上242	法眼(ケン)開(カイ)明(ミヤウ)ノ
522	疑	開	一	導	ケ	上404	障(平)シヤウ導(平)ケ
523	定	開	一	臺	タイ	上638	華(クエ)臺(タイ)ニ
524	來	開	一	來	ライ	上357	來(ライ)世ノ
525	從	開	一	才	サイ	上150	弁(平)才(去)海(カイ)ヲ
526	從	開	一	在	サイ	上232	如來在(サイ)世(セ)ニ・

527	匣	合	二	懷	クワイ	上063	述(入聲)シユツ懷(平)クワイ)スル
528	匣	合	二	懷	クワイ	上632	述(シユツ)懷(クワイ)シテ
529	見	開	二	戒	カイ	上263	破(平)戒(平)カイノ
530	見	開	二	界	カイ	上010	法(入)ホツ界(平)界(平)慧性(平)智・
531	見	開	二	界	カイ	上041	極(コク)樂(ラク)世(セ)界(カイ)ニ・
532	見	開	二	界	カイ	上086	世(セ)界(カイ)ノ

光明真言工沙勤信記の字音について

533	見	二	界	カイ	上47	因 <small>キ</small> (イン)陀 <small>上</small> (タ)羅 <small>上</small> (ラ)網 <small>上</small> (マウ)境 <small>キヤウ</small> (界 <small>カイ</small> )門 <small>ノ</small>
534	見	二	界	カイ	上181	境 <small>キヤウ</small> (界 <small>カイ</small> )ニ・
535	開	二	際	サイ	上371	邊 <small>キ</small> (ハ)際 <small>上</small> (サイ)ヲ
齋						
536	來	三	例	レイ	上408	例 <small>キ</small> (レイ)同スハカラサル・ゴトナリ・
537	開	三	世	セ	上041	極 <small>コク</small> (樂 <small>ラク</small> )世 <small>セ</small> (界 <small>カイ</small> )ニ・
538	開	三	世	セ	上086	世 <small>セ</small> (界 <small>カイ</small> )ノ
539	開	三	世	セ	上228	出 <small>シユツ</small> (世 <small>セ</small> )ノ
540	開	三	勢	セ	上232	如來在 <small>サイ</small> (世 <small>セ</small> )ニ・
541	開	三	勢	セ	別273	富 <small>フ</small> 貴 <small>キ</small> (カウ)一勢 <small>上</small> ノ
齋						
542	匣	四	惠	エ	上367	念 <small>キ</small> (ネム)惠 <small>キ</small> (エ)ノ
543	開	四	帝	タイ	上133	我此道場如帝 <small>タイ</small> (珠 <small>シユ</small> )・
544	開	四	躰	タイ	上009	躰 <small>キ</small> (タイ)性 <small>キ</small> (シヤウ)ハ・
545	開	四	躰	タイ	上391	躰 <small>キ</small> (タイ)ハ
546	開	四	躰	タイ	上636	同 <small>キ</small> (躰 <small>キ</small> )ノ
547	開	四	提	タイ	上062	無上 <small>キ</small> (ホ)提 <small>キ</small> (タイ)ヲ・
548	開	四	禮	ライ	上142	禮 <small>キ</small> (ライ)敬 <small>キ</small> (キヤウ)諸佛等ノ
549	開	四	禮	ライ	上145	禮 <small>キ</small> (ライ)敬 <small>キ</small> (キヤウ)シタテマツル・
550	開	四	禮	ライ	上152	禮 <small>キ</small> (ライ)敬 <small>キ</small> (キヤウ)・稱 <small>シヨウ</small> (讚 <small>サン</small> )等・
551	開	四	禮	ライ	上162	惣 <small>ソウ</small> (禮 <small>ライ</small> )ニモ
552	開	四	濟	サイ	上636	弘 <small>クウ</small> (濟 <small>サイ</small> )ノ

灰	553	明合	一	昧	平	上081	金(コム)剛(カウ)三昧(マイ)經ト・
	554	曉合	一	悔	平	上084	後(ホ)コウ(コウ)悔(ホ)クワイ
	555	從合	一	罪	濁	上089	罪(平)サイ(サイ)苦(平)ク(ク)ノトコロニ
	556	從合	一	罪	濁	上096	罪(平)サイ(サイ)業(コウ)ヲノミ・
	557	從合	一	罪	濁	上080	罪(平)サイ(サイ)報(平)ホウ(ホウ)ヲ・
	558	從合	一	罪	濁	上222	罪(平)サイ(サイ)人(ニン)ト
	559	從合	一	罪	濁	上222	罪(平)サイ(サイ)縁(エン)ニ
	560	從合	一	罪	濁	上264	罪(平)サイ(サイ)報(ホウ)ヲ
	561	從合	一	罪	濁	上383	滅(メツ)罪(サイ)生善ノ
	泰	562	匣合	一	會	去	上083
563		匣合	一	會	去	上199	廣大佛會(エ)ノ
564		定開	一	大	去	上077	大(平)タイ(タイ)唐(平)タウ(タウ)ス
565		定開	一	大	去	上109	大(平)タイ(タイ)事(平)シ(シ)ナルハキニ・
566		定開	一	大	去	上159	大(平)タイ(タイ)乘(平)シヨウ(シヨウ)ノ
567		見開	二	解	濁	上155	深(平)シム(シム)信(平)シン(シン)解(平)ケ(ケ)力(リキ)トニ・ヨリテ・
佳	567	見開	二	解	濁	上155	深(平)シム(シム)信(平)シン(シン)解(平)ケ(ケ)力(リキ)トニ・ヨリテ・

遇撰

光明真言工沙勤信記の字音について

魚	568	曉	開	三	虚	コ	上	上370	大虚(コ)空(クウ)海(カイ)ノコトクシテ・
	569	喻	開	四	餘	ヨ	上	上119	餘(ヨ)
	570	喻	開	四	与	ヨ	上	上379	与(ヨ)樂(ラク)披(ハツ)苦(ク)ノ・
	571	群	開	三	巨	キ	上	別027	巨(キ)一海ノコトクニ
	572	群	開	三	御	コ	上	上083	御(コ)聽(キ)チヤウ聞(モ)ン
	573	疑	開	三	語	コ	平	上013	密(シツ)語(ゴ)ナリ・
	574	照	開	三	諸	シ	平	上139	諸(シ)門
	575	穿	開	三	處	シ	平	上241	坐(サ)禪(セン)處(シ)下セリ・
	576	初	開	二	初	シ	平	上656	初(シ)後(コ)夜(ヤ)・
	577	山	開	二	所	シ	平	上1011	成(シ)ヤウ所(シ)作(サ)智ナリ・
	578	山	開	二	所	シ	平	上1026	所(シ)證(シ)ウノ
	579	山	開	二	所	シ	平	上173	所(シ)詮(シ)ウノ
	580	山	開	二	所	シ	平	上230	所(シ)化
	581	山	開	二	所	シ	平	上368	心所(シ)ナリ・
	582	山	開	二	疏	ソ	上	上659	親(シ)疏(ソ)ノ
模	583	幫	開合	一	布	フ		上004	流(ル)布(フ)シテ・
	584	滂	開合	一	布	フ		上141	流(ル)布(フ)シテ・
	585	滂	開合	一	普	フ		上141	普(フ)賢(ケン)行願(クワン)經ニ・
	586	滂	開合	一	普	フ		上154	普(フ)賢(ケン)苦(ホ)薩(サツ)・
	587	並	開合	一	菩	ホ		上062	無上菩(ホ)提(タイ)ヲ・

588	並	開合	一	苦	ホ	上154	普(フ)賢(ケン)苦(ホ)薩(サツ)。
589*	明	開合	一	謨	ホ	上113	阿(ア)謨(ホ)伽(キヤ)吠(ハイ)嚕(ロ)遮(シヤ)囊(ナウ)ト
590	匣	開合	一	護	コ	上120	護(平濁)(コ)持(上濁)(チ)スルハ。
591	匣	開合	一	護	コ	上135	救(平)(ク)護(平濁)(コ)スルニ
592	溪	開合	一	苦	ク	上139	罪(平濁)(サイ)苦(平)(ク)ノトコロニ
593	溪	開合	一	苦	ク	上148	苦(平)(ク)報(平)(ホウ)ヲ
594	溪	開合	一	苦	ク	上176	苦(ク)惱(ノウ)ヲ
595	溪	開合	一	苦	ク	上179	与(ヨ)樂(ラク)拔(ハツ)苦(ク)ノ。
596	透	開合	一	土	ト	上181	極樂國(コク)土(平濁)(ト)ニ
597	透	開合	一	土	ト	上176	淨(シヤウ)土(ト)ノ
598	定	開合	一	途	ツ	上178	三途(上濁)(ツ)ニ
599	定	開合	一	途	ツ	上175	三途(ツ)ノ
600	定	開合	一	途	ツ	別514	冥(平)(メイ)一途(平濁)(ト)ニシテ。
601	定	開合	一	途	ツ	別636	冥(平)(メイ)一途(平濁)(ト)ニ
602*	來	開合	一	嚕	ロ	上113	阿(ア)謨(ホ)伽(キヤ)吠(ハイ)嚕(ロ)遮(シヤ)囊(ナウ)ト
603	來	開合	一	路	ロ	上178	海(カイ)路(ロ)ヲ
604	精	開合	一	祖	ソ	上182	祖(上)(ソ)師(上)(シ)。
605	精	開合	一	祖	ソ	上171	祖(ソ)師(シ)ニシテ。
606	奉	開合	三	夫	フ	上188	凡(ホム)夫(フ)モ
607	奉	開合	三	夫	フ	上231	凡(ホソ)夫(フ)ナリ。
608	微	開合	三	無	ム	上137	無(上)(ム)間(平)(ケン)地(チ)獄(コク)等(トウ)ニ。
609	微	開合	三	無	ム	上120	無(ム)量(リヤウ)无(ム)邊(ヘン)ナルヘキナリ。
610	微	開合	三	無	ム	上119	無(ム)盡(平濁)(シン)ノ

611	微	開合	三	無	上165	周(シユ)遍(ハシ)無(ム)窮(クウ)ノ
612	微	開合	三	無	上387	無(ム)漏(ロ)ノ
613	微	開合	三	無	上387	無(ム)二無別(ハチ)ナリ・
614	微	開合	三	無	上20	無(ム)量(リヤウ)无(ム)邊(ヘン)ナルヘキナリ・
615	見	開合	三	句	上3034	句(ク)義(ギ)ヲ
616	群	開合	三	具	上3033	具(ク)足(ソク)シ・
617	疑	開合	三	愚	上194	愚(ク)僧(ソウ)・
618	澄	開合	三	住	上373	住(チウ)持(チ)假(ケ)立(リウ)ノ
619	照	開合	三	珠	上163	我此道場如帝(タイ)珠(シユ)・
620	心	開合	四	須	上121	須(シユ)弥(ミ)山(セン)ト・

效撰

621	幫	開	一	寶	上008	寶(ホウ)生(シヤ)・
622	幫	開	一	寶	上122	頗(ハ)胆(テイ)迦(カ)寶(ホウ)ト・
623	幫	開	一	寶	上263	三寶(ホウ)物(モノ)ヲ
624	幫	開	一	報	上048	苦(ク)報(ホウ)ヲ
625	幫	開	一	報	上060	罪(サイ)報(ホウ)ヲ・
626	幫	開	一	報	上264	罪(サイ)報(ホウ)ヲ
627	明	開	一	毛	上143	毛(モウ)端(トウ)ノ
628	匣	開	一	豪	別272	富一貴豪(カウ)一勢(セツ)海(カイ)ノ
629	端	開	一	切	上270	初(タウ)利(リ)天(テン)ニ
630	定	開	一	道	上042	遊(ユ)心安(アン)樂(ラク)道(タウ)ト・
631	定	開	一	道	上054	惡(アク)道(タウ)ニ

豪



832	定開	一	道	上127	道 <sup>(平)</sup> 理 <sup>(平)</sup> (リ)ナリ・
833	定開	一	道	上128	道(タウ)理(リ)モ
834	定開	一	稻	別123	稻(タウ)粟(ソク)麻(マ)麥(ミヤク)ノ・
835	泥開	一	惱	上176	苦(ク)惱(ナウ)ヲ
836	清開	一	草	上123	草(サウ)木(モク)ノ
音					
837	曉開	二	孝	上648	孝 <sup>(平)</sup> (ケウ)順 <sup>(平)</sup> (シユン)
838	見開	二	教	上136	佛教(ケウ)ノ
音					
839	明開	四	妙	上1011	妙 <sup>(平)</sup> (メウ)觀 <sup>(去)</sup> (クワン)察 <sup>(入)</sup> (サツ)智 <sup>(入)</sup> ・
840	明開	四	妙	上149	妙 <sup>(平)</sup> (メウ)音 <sup>(去)</sup> (イン)聲 <sup>(上)</sup> (シヤウ)ヲ
841	影開	四	要	上659	要(エウ)ニ
842	澄開	三	潮	上387	海(カイ)潮(チウ)ハ
843	澄開	三	召	上1087	召 <sup>(去)</sup> (チウ)請 <sup>(平)</sup> (シヤウ)シテ・
844	澄開	三	召	上1094	召(チウ)請(シヤウ)セムト・
音					
845	日開	三	遠	上144	圍 <sup>(上)</sup> (キ)遠 <sup>(平)</sup> (ネウ)シテ・
846	曉開	四	曉	上1085	元 <sup>(去)</sup> (クワン)曉 <sup>(平)</sup> (ケウ)ト
847	定開	四	調	上178	調 <sup>(去)</sup> (チウ)和 <sup>(上)</sup> (ワ)ス・
848	定開	四	調	上134	調 <sup>(去)</sup> (チウ)和 <sup>(上)</sup> (ワ)シテ

光明真言工沙勸信記の字音について

流撰

候

649	匣	一	後	上405	後 <small>(平漢)</small> (コ)生 <small>二</small>
650	匣	一	後	上464	後 <small>(平)</small> (コウ)悔 <small>(平)</small> (クワイ)
651	匣	一	後	上856	初 <small>(シ)</small> 後 <small>(コ)</small> 夜 <small>(ヤ)</small> ・
652	匣	一	厚	上466	厚 <small>(平)</small> (コウ)恩 <small>(平漢)</small> (オン)ヲ
653*	頭	一	鉢	上1017	鉢 <small>(ハ)</small> 頭 <small>(ト)</small> 摩 <small>(マ)</small> ト
654	頭	一	頭	上164	頭 <small>(ツ)</small> 面 <small>(メン)</small> 接 <small>(セツ)</small> 足 <small>(ソク)</small> 歸命礼ト
655	來	一	無	上367	無 <small>(上)</small> (ム)漏 <small>(平)</small> (ロ)ノ
656	精	一	奏	上1089	奏 <small>(平)</small> (ソウ)状 <small>(上漢)</small> (シヤウ)ノコトクニ・

尤

657	幫	三	不	上1025	本 <small>(平)</small> (ホン)不 <small>(上)</small> (フ)生 <small>(上)</small> (シヤウ)ニシテ・
658	幫	三	不	上1052	不 <small>(上)</small> (フ)空 <small>(上)</small> (クウ)額 <small>(平)</small> (ケエン)索 <small>(上漢)</small> (シヤク)經 <small>(上)</small> ヲ
659	幫	三	不	上170	不 <small>(フ)</small> 可 <small>(カ)</small> 力 <small>(リキ)</small> 思 <small>(シ)</small> 議 <small>(ギ)</small> (キ)
660	幫	四	不	上853	不 <small>(上)</small> (フ)空 <small>(上)</small> (クウ)三藏・
661	于	三	有	上442	遊 <small>(上)</small> (ユ)心安 <small>(平)</small> (アン)樂 <small>(上漢)</small> (ラク)道 <small>(上漢)</small> (ダウ)ト・
662	于	三	有	上1066	有 <small>(ウ)</small> 縁 <small>(エ)</small> トス・
663	見	三	救	上835	救 <small>(平)</small> (ク)護 <small>(平漢)</small> (ゴ)スルニ
664	見	三	究	上1229	究 <small>(カ)</small> 竟 <small>(キヤウ)</small> 成佛ノ
665	見	三	丘	上1041	青 <small>(上)</small> (シヤウ)丘 <small>(平)</small> (キウ)大師 <small>(シ)</small> ト・
666	溪	三	丘	上1129	青 <small>(シヤウ)</small> 丘 <small>(キウ)</small> 大師 <small>(シ)</small> ト・

657	幫	三	不	上
658	幫	三	不	上
659	幫	三	不	上
660	幫	三	不	上
661	于	三	有	上
662	于	三	有	上
663	見	三	救	平
664	見	三	丘	平
665	見	三	丘	平
666	溪	三	丘	平

867	幽	溪	三	丘	ル	平	上134	青 <sup>上</sup> 丘 <sup>平</sup> 大師ノ。
868		溪	三	丘	ル	平	別288	青 <sup>上</sup> 丘 <sup>平</sup> 大師ノ。
869		來	三	流	ル	平	上003	流(ル)布(フ)シテ。
870		來	三	流	ル	上	上141	流(ル)布(フ)シテ。
871		來	三	流	ル	上	上230	四相流 <sup>上</sup> (ル)轉 <sup>平</sup> (チン)ノ
872		來	三	流	ル	上	上122	四相流 <sup>上</sup> (ル)轉 <sup>平</sup> (チン)ノ
873		清	四	就	ル	上	上008	吠 <sup>平</sup> 瑠 <sup>平</sup> (ハイ)瑠 <sup>平</sup> (ル)瑠 <sup>平</sup> (リ)。
874		照	三	周	シユ	上	上165	不空(クウ)成(シヤウ)就(シユ)佛ナリ。
875		照	三	周	シユ	上	上165	周(シユ)遍(ハン)無(ム)窮(クウ)ノ
876		照	三	咒	シユ	上	上661	周(シユ)遍(ハン)シテ。
877		照	三	咒	シユ	上	上066	咒 <sup>平</sup> (シユ)沙 <sup>平</sup> ニ
878		心	四	修	シユ	上	上089	咒(シユ)沙(シヤ)ニ
879		心	四	修	シユ	上	上037	修 <sup>上</sup> (シユ)セスシテ。
880		心	四	修	シユ	上	上057	修 <sup>上</sup> (シユ)羅 <sup>上</sup> (ラ)
881		禪	三	受	シユ	平	上657	修(シユ)スレハ。
882		禪	三	受	シユ	平	上064	他 <sup>上</sup> (タ)作 <sup>平</sup> (サ)自 <sup>平</sup> (ジ)受 <sup>平</sup> (シユ)ノ
883		禪	三	受	シユ	平	上141	受(シユ)持(チ)讀(トク)誦(シユ)スル。
884		禪	三	受	シユ	平	上218	信(シン)仰(カウ)受(シユ)持(チ)シテ。
885		禪	三	受	シユ	平	上374	受(シユ)持(チ)觀(クワン)念(ネム)ノトコロニ。
886		禪	三	受	シユ	平	上394	受(シユ)用(ヨウ)スルカトシ。
887		禪	三	受	シユ	平	上639	他(タ)作(サ)自(ジ)受(シユ)ノ

幽<sup>平</sup>「イウ」鍵<sup>平</sup>(ケン)ヲ

果撰

光明真言工沙勸信記の字音について



708	滂	合	一	頗	ハ	上122	頗(ハ)胆(テイ)迦(カ)寶(ホウ)ト。
709	滂	合	一	破	ハ	上123	破(平) (ハ)戒(平) (カイ)ノ
710*	明	合	一	摩	マ	上1015	摩(マ)訶(カ)勃(ホ)陀(タ)羅(ラ)ト
711*	明	合	一	鉢	マ	上1018	鉢(ハン)頭(ト)摩(マ)ト
712	曉	合	一	水	ク	上117	水(スイ)火(クワ)ノ
713	曉	合	一	火	ク	上126	大火(クワ)ノ
714	匣	合	一	和	ワ	上178	調(平) (テウ)和(上) (ワ)ス。
715	匣	合	一	和	ワ	上202	和(ワ)合(カウ)シテ
716	匣	合	一	和	ワ	上394	調(平) (テウ)和(上) (ワ)シテ
717	見	合	一	果	ク	上188	果(ク)ワ(徳)トク)ヲ
718	見	合	一	果	ク	上398	增(平) (ソウ)上(平) (シヤウ)果(平) (クワ)ナルカユハニ。
719	見	合	一	坐	サ	上241	坐(平) (サ)禪(セン)處(シヨ)トセリ。
720	從	合	一	座	サ	上193	百座(サ)ノ

假撰

721	明	開	二	麻	マ	別473	稻(タウ)粟(ソク)麻(マ)麥(ミヤク)ノ。
722	曉	合	二	化	ク	上662	化(ク)エ生シテ。
723	曉	合	二	化	ク	上230	變(平) (ヘン)化(平) (クエ)身(シン)。
724	匣	開	二	下	ケ	上185	下(ケ)僧(ソウ)。
725	匣	合	二	華	ケ	上070	華(ケ)エ嚴(コム)宗
726	匣	合	二	華	ケ	上638	華(ケ)エ臺(タイ)ニ
727	匣	合	二	華	ケ	上648	華(上) (ケ)エ蓮(上) (レン)ニ
728	喻	開	四	夜	ヤ	上656	初(シヨ)後(コ)夜(ヤ)。

光明真言工沙勒信記の字音について

729*	見開	二	伽	キヤ	上013	阿(ア)謨(ホ)伽(キヤ)吠(ハイ)嚕(口)遮(シヤ)囊(ノウ)ト
730	見開	二	加	カ	上029	加(カ)持(チ)スルト・
731	見開	二	迦	カ	上122	頗(ハ)股(テイ)迦(カ)寶(ホウ)ト・
732	見開	二	假	ケ	上251	假(平) (ケ)寶(入聲) (シチ)
733	見開	二	假	ケ	上373	住(チウ)持(チ)假(ケ)立(リウ)
734*	照開	三	遮	シヤ	上013	阿(ア)謨(ホ)伽(キヤ)吠(ハイ)嚕(口)遮(シヤ)囊(ノウ)ト
735	照開	三	者	シヤ	上030	眞言行(キヤウ)者(シヤ)
736	照開	三	者	シヤ	上034	亡(去) (マウ)者(平聲濁) (シヤ)
737	照開	三	者	シヤ	上085	大智(平) (チ)者(平) (シヤ)
738	山開	二	沙	シヤ	上089	咒(シユ)沙(シヤ)ニ